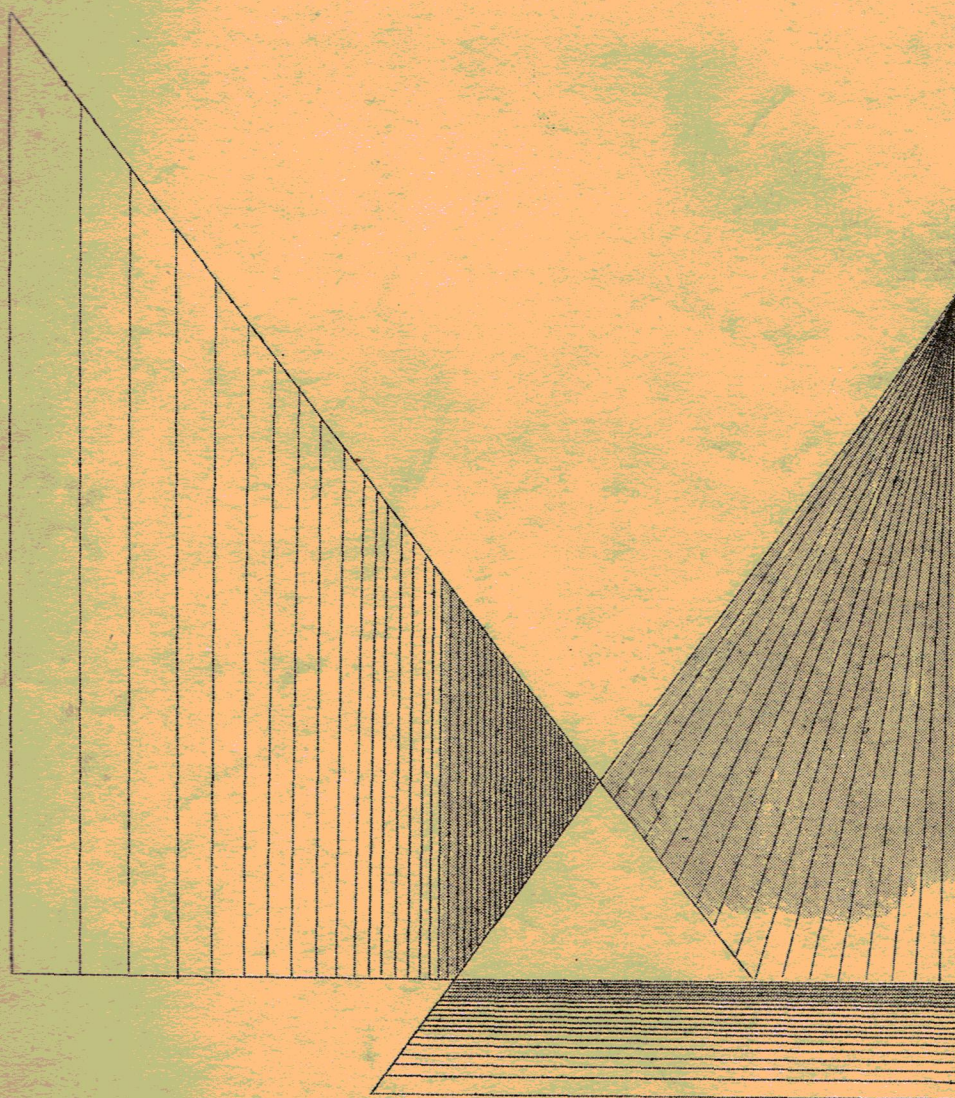


CHAIN

No.12



An Organ of Fib. Chem. Dept. '62-July

目次

山 寺 に 憩 う	4回生	原 隼	2
中沢前学長のことなど		相宅省吾	3
夏の学生旅行		松本喜代一	5
若き日を大切に		杉本昌子	9
大学生活は何を与えるか	4回生	原 隼	10
真赤な空に緑色の雲	1回生	宮崎能久	14
6.21闘争に反対し、加わらなかった皆さんへ	2回生	速見 弘	15
我が随想	1回生	山内浩市	18
ひとりごと — “Chain No. 11 編集と終えて” —	1回生	鶴野高資	21
学内を民主化しよう	1回生	山田博之	22
乗物の中で	1回生	泉 由美子	24
緋維不道德講座		X Y Z	25
就取にのりて考えたこと	4回生	年田英一	26
所 感 — No. 2 —	2回生	井上隆之	28
ヤフレカフレ — 人類への呪いと挽歌 —	3回生	竹西壮一郎	32
蟬	3回生	金井政洋	36
“なかにわ”			37
思想・随想・幻想 — 第3回 —	3回生	金田洋二	38
C科教職員及び学生名簿			43
編集後記			50

山寺に憩う

原 隼 4C

一朝、山寺に鐘る。人は唯孤愁の發。

錯節せる竹根を憂う勿れ 巷間に醜態を擲くの愚
唯知る、暢達な経文に我心を去る想ひ

老僧の自髻は颯颯の風に靡りて、速り堂宇に華やか
身を蓮台の仏前に捨てて 茶菓に甘んず
高唱す。求道を究めて此を逃れる可らと。

小人、自業に迷ってその道を問えは
一喝する、学究の足らざるを知らぬ。老主整え忘れて今日に至るも
なお仙道の極めざるを憂う。学究の道を天うよ何ぞと。

先年、学業に異心して 恋華に遊び心を極めれば
老僧、哄笑に付して 男子の子女を憐うは常なり。
むしろ小生の道 学に腐心してその弊害なるを省みよ。と

落陽に影して山内を辞せば 一人鐘楼に時を告げるあり。
小人凜然として巷間に下れば
山寺は渺渺として南画の如し。



中沢前学長のことなど

相沢省吾

此の五月末日に御退官になられた中沢前会長は今の繊維化学科の学生には入学式とか卒業式以外に接する事もなく馴染みが浅かったと思うが繊維化学科の基礎を造られた方であるばかりでなく、特に私にとっては学長の教励、御援助がなければ何一つ仕事も出来ず、小さな部屋で干されているか、或いはあきらめて職をかえていたかも知れない。

学長は皆も知っている様に春と夏の甲子園の野球の創立者の一人であり、審判長をしておられる程スポーツの理解者であり、将棋二枚（初段を二回貰われたという為）等スポーツに興味豊かな方であり、座談の名手で以前繊維化学教室にも来て頂き学生と共に色々話を承ったこともしばしばあった。そうして其の豊富な経験と学識の広さと頭の柔軟な話を聞くにつけても人の能力は年令に關係しない事が感じられた。

しかも先生は化学工業の大先輩であり私が京大で教えて頂いた最後の弟子という事になるが、先生の御専門は電気化学であり、私は有機高分子に連なったので孫弟子に当る訳である。学長としておいでになる迄は海軍時代に一寸御目に会っただけで殆んど卒業以来お会いしてなかった。しかし不思議な縁で本学学長として来られて以来孫の様に色々教えを受けお世話になった。私自身も丁度学生と同じく此の学校では学長とは公約な面では入学式、卒業式以外先生とは全く接触がなかったが、此の学校での唯一人の先生として苦しい時にしばしばお尋ねした。時にははげしい叱責を受けた。時には非常に喜んで頂いた時もあった。そして其の時々に話された言葉を今猶かみしめて一生の指針にしている。

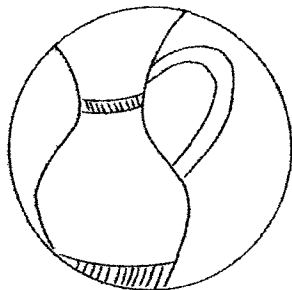
何日だったか十年にも近い以前、一文の研究費もなく若しんでいた時先生の所に行き泣言を述べた時「研究費がないから研究が出来んと言う人には、研究費をやっても無駄だ。良い研究をせよとしゃって行けば研究費など不自由せんものだ。」と言われて直返されてしまった。又更に私が工場でナイロンを作ったが売れなくて会計からやみましく言われ、ストックを山の様に質上げられ仕事も座折を思わせた。思案余って先生にどうしましようかと相談した時に、先生は工業と言うのは良い物を作るのが才一、次にそれを売るのが才二、売ったものの代金を回収して利益を上げるのが才三。此の才一、才

二、オ三が揃って初めて工業が成立つのだと言われた。私も心の中ではそんな事は言われなくともわかっている。それが出来ないから相談に来たのではないかと思ったが、よしそれならあらゆる手段を講じてでも売って売って売ってまくってやろうと、デコボコの肩糸とロープにあみ流濯垣こして 学生縁故者、病院、アパートへの行商を大学助教授の名刺を振り廻しながら 躍気となって苦斗したおかげで伊勢の海で真珠養殖の大用途を見つけてストッファー掃の喜びは何にも変え難い喜びであった。此の時学内では色々非難の声も上ったが後の学長の言葉がこの困難の支えとなった。そして此の工業に対する学長の考えの誤りでなかったことを知り、更に此のろ紙糸系の技術より生れた研究が更に新しい研究を生み、それが物質的の裏付けとなって研究は順調に進んで行くのを見ても先生の言葉の誤りでなかった事を知った。

此の一二年時に伺っては日本の化学工業の生立ちについて色々貴重な話を承った。此の春招かれて四国の住友化学新居浜に行く時、先生に住友化学の創立の時の話を伺った。住友は如何に SO_2 処理に困ったか。その SO_2 が入の処理の成功が此の目の前に展開される日本一の大化学工場の基礎をなしていると同時に、此の硫化銅を産出する列子の山々に父祖の活躍した跡をしのび、縁と言うものゝ味な一面を知り感慨一へであった。

今学長は御退官になられた。そして私は教を受けるばかりで、何一つ学内で先生に盡す事は出来なかつた。しかしこれからも 先生の言葉を指針として斗って行く積りである。

人生において良き師にめぐり会ふというのが最高の幸運だとある人は言ったが、此の意味で私も中沢先生に教えを受けたという事は幸運な事である。



夏の学生旅行



松本 茂代一

夏休みも近ずいて学生諸君らは休暇中のプランに多忙のことと思う。それで今回は、夏の学生旅行のコツを伝授しようと思う。なお最初に断っておくが、これがほんの一例であるということをお忘れなく。以下をお読み下さい。「学生旅行」＝「貧乏旅行」とまでは云い切れなくても、大体似たりよったりである。というのは「なるべくカネを使わずに、一日でも多く、一ヶ所でも多く旅行したい」学生気質が自然そうさせるようで、これも学生諸君の親存行の一つの表われと見てよいだろう。従ってここではそのような旅行のあり方、仕方を中心に極く当り前のことも出てくるだろうが、まあ一読されたい。

オーストリアに「心構え」。学生旅行である限りやはり、体面や見栄を捨てて、ガメツクなり、合理的に物を考えるのも結構だが、決して学生らしさを失わず、社会一般のルールは守らねばならない。だから一時なりともコジキヤルンペンのようにまで身を落しては全く情無い限りである。実際に貧乏面をするのではなく、貧乏ゲームとして楽しむのであるという心構えは忘れなれどよし。

オーストリアに「服装」と「持ち物」。時にはホームのベンチでごろ寝をしたり、トロソコやタンフカーなどに便乗させてもらうこともあるだろうから、服装はなるべく不断着がよい。汚れても心配のいらないもので、特に上着などは、汚れても汽車の洗面所で簡単に洗濯できて降りる時には乾いていてノーアイロンで着られるような。例えば色物のナイロンやテトロンスポーツシャツがよい。そして地方へ行った時のアブや蚊などの防虫用と、夜の防寒用を兼ねて夏とはいえ長袖がよい。長旅にはもちろん肌着のスペアが必要だ。汗臭いシャツを着て人ごみの中へ入られては他人が迷惑する。夏のシャツなんかは洗っても割合簡単に乾くからスペアは一組でよいだろう。帽子はやはりトレードマーク？の学生帽がよいがなければ登山帽でもよいからかぶった方がよい。便利な持ち物に、空気マクラと毛布がある。マクラは時には座席の腰あてにもなるし、毛布はどうせまとまな宿に泊ったのではその初期の目的に反するのだから、自然とベンチやテントなどがなくなるだろう。そのような時にもこれさえあれば何とか安眠できる。とかく夏は学生旅行のバ

ラタイズである。もっとも高山、高原など夜冷えの甚だしき所では通用しないからそのような所へ行く時には少々かさはるけれどもやはりシュラフが要る。次に傘。この頃は折り畳みが多く出廻っているのが大助かり。傘が重くて邪魔だという人は、ビニルのレインコートがよろしい。また懐中電灯も必需品の一つだ。とかく一日をフルに使って旅することが多いので、早朝とか、夕方遅くとか、ハンパな時間の行動があり、また定同行動の時も、またたとえテントでなくてももうす暗い宿や山小屋に泊ったりする時に、つくづくその便利さを再認識するものである。この趣、方角オンケの人は北国と磁石を。意外便利であるものにタオルがある。少くとも3~4本持って行き時にはハラ巻きに、時には肌着のピンチヒーターにもなる。また濡れた物を包んだり、何かと便利なビニル風呂敷とポリエーケのや、大きめの袋、古新肉、石炭にヒモ、輪ゴム etc.

3番目に「旅行の人数」である。単独行は全く不便だ。荷物の監視、座席の確保、乗越し防止、その他何かと不便なことが多い。中には単独行で出発して、何処かでパートナーを探す人もいるが、仲々そう簡単に見つかるものではないし、結局は複数になって旅することになる。しかしまた多過ぎても困る。汽車に向に合うかどうかと気をもんでけるのに、何人何処かへ行って帰って来なかったり、皆の座席がとれなくて2~3人が立っている時など（どうしても時々代ってやるのか人情だから）やはり困る。また、中には宿や食事などでついセイタクを云わんとも限らない。従って理想は気の合った4人がよいと思う。汽車や電車のシートは大抵4人1組だし、バスのようにロマンスシートなら2メスで都合がよい。また、トランプや麻雀などで遊ぶ時にも都合がよい。なお奇数人数はややもすると1人が余り、肝心しない。

4番目に「宿泊」について。れっきとした宿に泊るようでは学生旅行らしくない。これは何と云っても夜行列車利用が最高だ。無料で宿泊できてその間に距離をかせいでくれるのだから大変よろしい。たぶん夜行列車は学生の旅行者達で大繁盛だ。しかし余りに賑やかな車は安眠妨害で、いくら若さを誇る学生諸君でも生身には違いなりのだから、長旅の間にはバテてしまう。だから混雑した夜行は敬遠した方がかしこい。次にやはり学生らしい宿泊といえはテントだろう。昔は重くて困ったが、（特に雨に降られたテントなどは）最近では軽いナイロンやテトロン製のものが出来たので大助かり。4~5人用のナイロン製で支柱、ロープまで入れて約3kgだから軽いことなり。またキャンプ地も大概の川原なら他人に迷惑を掛けないし、中一翌朝起きた時の清々しさは格別だから、川原を大いに利用すべしだ。水の音がやかましくて

寝られないような神聖の持ち主は大体初めからこのような旅行をする柄でな
りと思う。しかし、次に書く駅のベンチとなると、余程神聖の太り者でな
ければ出来るわけでない。(但しローカル駅はこの限りにあらず)駅のベン
チに泊るコツは、夜遅く駅へ行つて一寸駅員に頼めば一泊位何とかなるもの
だ。高等戦術?としては親戚や友人宅へ泊るのがある。また一般旅館で素泊
りとして食事は一斉外ですますのも学生旅行らしい。この場合の旅館の交渉
のコツとしては、夜遅く着き(是非泊めてほしいような振りをすると足元を
みられ高く泊られるからその要領がむかし)翌朝は宿の食事の準備
の出来ない位早々と出発すると、素泊りにしても一向に不自然でなく、旅館
でそういやな顔をされないのである。その他各地にあるユースホステルや青年
の家などは学生向けの健全安価な宿として推奨できるから、これらの資料を
常々集めておくとよい。なおまた、学生の特権を行使して地方の公民館や学
校などもより宿になるが、余程行儀よくしないとその土地の人、また母族
の方も困るので十分注意してほしい。

さて5番目に「費用」の方であるが、海外旅行や超長期旅行なら、アルバ
イトをしながら無銭旅行も出来ようが、夏休み利用の学生旅行となるとそん
なのはやはり能率が悪い。日頃コツコツかせいだアルバイト代やかじった親
のすゑの蓄積を最大限に有効に使うべきである。しかし最近のような状態で
はどうしても1日当たり500円位の最低予算は必要だろう。従つて遠く
へ行くとするとどうしても旅費に予算をくれ、宿泊はテント、食事は自炊と
いうことになり兼ねない。ところで旅費のことであるが、国鉄の運賃は次式
のように300kmを境にしてそのペースが違ふ。だから出来る限り連続して
300km以上になるように工夫してくたえ中断があつても連続にした方が
安けり時もある)キツプを買うのは利口なやり方である。

鉄道運賃概算式 300kmまで $y = 2.75x + 5$

300km以上 $y = 1.35x + 425$

但し y : 運賃, x : 距離, なおこれは最小二乗法にて計算した。

また学割、周遊券、季節割引なども少々無駄があるようでも利用した方が
徳なようである。周遊券の利便は一々駅でキツプを買う必要がなく、1ヶ月
も通用期間がある上に、10万円の交通傷害保険がかけてあるから便利である。
これらの学割と周遊券が二重に併用出来るのだから、十二分に研究すると安
い旅行が出来る。

6番目に「プラン」; 学生旅行の中によく無計画旅行といつて、駅で丁度
間に合った列車に乗り、気に入った町で降りるといったような旅行をする人

があるが、時間は無制限でもやはりサイフの方は制限されているのだから、とかくムカが多々ようだ。大体目的地なしの旅行なんて学生らしくないように思うがどうだろう。やはり、サイフの中味と時間は一応ワフに入れて、その中で最大限の楽しい旅行をすべきだと思う。プランは綿密なほどよい。また余裕もほしい。たゞ単にコースを計画するだけでなく、費用の方も、交通機関の種類や宿泊方法等をも組入れないと十分なプランとは云えない。地図時刻表、案内書と、机一杯に拡げて何回修正してもよいから在念に研究すべきで、学生諸君にはすぐに楽しい仕事になること受合ひである。プランの時間が長ければ長いくほど楽しくて、旅行の楽しみが長持ちして、これまた至極的だといえる。とかくノース分の乗換え時間などを組む時は仲々スリルがあつてよい。また実際旅行中にそのスリルは頂点に達するから嬉しい。

いよいよ着目であるが、「見学」についてである。学生旅行の時、特に工学系の学生はせひ共、工場見学をそのプランに入れておくことを奨める。工場見学出来るのも学生の特権の一つで、社会へ勤めれば大抵その系列の工場以外の見学はオフリミントされる。ところで工場見学の効用は今更書きたるべきもないが、とにかく一つでも多くの工場を、それがたとえどんなに少くとも、また自からの学内に一見関係がないようでも、工学士と卵としての目でもって見学してほしいと思う。それが将来何時かきっと何らかの形として役立つ日があることを期待して見学すれば興味も倍増することだろう。昔から「百聞は一見にしかず」というが正にその通りである。なお工場見学の方法は少数の場合、その工場の先輩を尋ねて行くのが最も手取り早い方法であるが、この際にも十分エケケットだけは心掛けてほしい。

最後に「健康」。何時の場合でもそうであるが、特に旅をするには健康でなければならぬ。それには日頃からコンディションの調整に気をつけねばならぬが、その調整も自命が一番よく知っているのだから若さにまかせて無茶をしなれりことである。旅をすればおのずと環境も変わるのだから、そのような時に健康のバランスがくずれやすい。疲労の蓄積は絶対禁物である。とにかく、健康で愉快な旅行をしたいものである。

限られた紙面もどうやら埋めることが出来た。読み終つて当り前のことはかり書き綴つたようだし、また中には余りにも些細なことまで書いたが、これが夏休みの旅行に一寸でも役立つは幸甚です。

「若き日を大切に」

杉本 富子

時は流れるのか

何が違えるのか、過ぎていった

私にも大学生と呼ばれ得る生活があったのか

人間の脳裏は多少とも過去をかえりみせてくれる。それはインクと紙が藍色にしみついた薄汚れた数冊の日記である。これこそ我生活録であり成長の跡を残す玉宝である。日記帖にはその年令なりの悩みとその解決が自分なりに記されている。過ぎてしまった今日までの時間は全く空白ではなかった。

過ぎた自分は死んだゆけからではなくて生きていたのだ。

「私が十五の年令から日記を書き始めていたら、ずっと今の今になっても、生きてきた、という思いが楽しませるだろうに……」というアントワンの言葉のように読みかえす日記の一頁一頁が私に勇気を与えてくれる。

明日への生動の根源である今もなお鋭く刺激の拡張を求めて

しみし過ぎし日は懐しい

かけても幼り日々の思ひ出は行暮れた旅人がふと見出した人家の明りのように暖かいしみじみした光を心の中に披けかけてくれます。喜びも悲しみも時の経過によって溶け合い、和らぎ合い、浄化されて自分に返ってくる。様々な思ひ出を残し私がこれから進む人生の道はけわしい山路をよじ登り断崖絶壁に出合っただけのこともあるかもしれないし、又平坦な田舎道をたどり小鳥のさえずる草原に憩う事もあるかも知れない。どの道を進もうとも目的は唯一である筈である。

私達の時代は非常に不思議な時代です。矛盾と危険に満ちた時代です。美しい夢に乗って空を駆けめぐるかと思うと自分の姿に言い知れぬ絶望を感じたり楽しい集りの中にあつて突然孤独におそわれる。そうした希望と絶望、享樂と虚無が次々と私を駆けめぐり落ちつくことの出来なり不安が私をとらえることもあります。

人間の過ぎし思ひ出は確かに懐しい。しみし唯思ひ出を懐しむだけでは、本当の若人の生きる姿とはいへない。「老人は過去に生き、青年は未来に生きるの言葉通り若人にはこれからの人生に対する理想に燃えて前進することは青年の特権でしょう

「大学生活は何を与えるか」

4 C 原 隼

長い生涯の一節をさらに四年にこま切れにして、その人間が前進したり後退したりしたのを、ごく大まかに“酔歩の法則”に当てはめて、各学年の初めと終りを結んでそのベクトル値を論じようというのだから随分丈司の出る筋合りもあるかも知れない。今日は一回生から四回生までの中で平凡にあまり個性的でない連中から四人をつまみ上げて好き勝手に話をして頂くが、便利の為、彼等を一、二、三、四、で呼ぶ事にし度い。

四「別に議長が居る訳やなし、教授も呼んでおりませんから、気兼ねなく、全く無記名に、おつその秘密は守りますから。」

二「まるで興信所の宣伝文句やなあ、兎に角、テーマを決めて貰わんと。」

三「野郎ばかり集まったとなると落ち着く先は----。」

二「三回生位になると何でこういやらしなるんやろ、えゝ恰好云うたった。」

四「一回生の君は？いやらし静かやがまず入学して今日何を感じてますか。」

一「先輩に失望して。どうも済みません。まだ入学してそんなに経ていなければ何もかもが消極的な大学やと思ってます。」

四「その事は毎年の *Chain* に繰り返えられる事で----。」

二「それなら、何とかしたらどうですか？」

四「その前に、皆今君達の頭の中を占めてるのは何ですか。」

一「やはり大学生活へのかすかな期待とクラブの事。それから独語の試験。」

二「大学自体への疑問と政治活動。それからクラブと----それからえゝカールフレンドが出来ても悪くなりと思ってます。」

三「えゝ恰好する訳やないけど実験に追われてます。それに夏の実習の事。」

四「自分の実験はそうだが、今ちよっと就取の事かな？」

三「先輩はいつ頃から就取の事考えてましたか？」

四「正直云って自分は何処にしようと決めるのは入社案内のパンフレットを見てからで、ひとり連中はとに角繊維関係でも化学会社でも商社でも給料さえ良ければと云うんだから。比も一つには案内見て二三日の内に決めなきゃならんという事が影響してるなあ。」

二「そんな事より先の話はどうなつたんですか。」

四「消極的と云うのは政治活動を含めた自治活動と、それからあんまりこの大学の事が新聞に出ないと云う事、それに……。」

三「ここの学生はあまりもてなくて女性関係に乏しく……と違うか。」

一「ませっかえしちや困りますよ。それに何と云うか大学と云えば皆、深刻な顔して哲学でも論じ合うとか集会で政治問題を探り上げたり、或いは化学のシンポジウムみたいなものがあって討論し合うとか。そんなイメージと描いて皆入学してますからね。それが全く裏切られてしまって……。」

四「それはあるな。しかし恋愛の方は尼僧事件というのがあって新聞にでかでかとした先輩もあって……それは良いとして。君達が親爺から旧制大学時代の話を聞かされて青春の覇気を学問の上で火花を散らし等と夢みたような物を誰でも描いていたと思うが。しかし大学そのものの本質が変わってしまったと云う事も云えるんじゃないかな。僕が二回生の頃、丁度自治会に首を突込んでいて例の安保騒動の真際中、楠導委員会の教授連と意見が合わず、あけくに何度も一喝されたり、寮に集まって夜通し対策を考えたり、或る時は強固な教授を個別に説いたり(?)、散々学生大会にもめた末に、デモに加わったり、あの時はこの大学の自治会もやっとなを吹いて来た等と喜んだもので、今から考えれば結構楽しいもんだが、

一回生の頃は旧寮に窓から酒を持ち込んで数人がカードをしたり、恋愛論や政治問題果ては……に話を咲かせて大学生活の意義ここに尽きると楽しんだものだ。忘れもしない二回生のクリスマスイブの夜、友達が一ホ下げて来たのを良し事にスルメを山程買って来て飲み騒ぎ、疲れ果てた顎を押えて河原町をそろそろと歩いた事があるよ。」

二「それ皆ほんまですか。そんながあんたなんて信じられんみたいやけど。」

僕なんか浪人してる身もあって三回生くらいでも頼りのうて。」

三「馬鹿云え。僕がて今の四回生にはあんまり頼りにしてへんからな。」

四「それは共通して云えると思う。一年上位では大体そうやってる事が推察出来るから、あれ位なら自分にでもと思ってしまう。はつきり云って二三四回生の頃は教授に対しても不信を抱く場合があるんじゃないかな。」

二「黄色い前時代のノートを朗読されると、誰でもそう思いますよ。」

三「結局、先輩にしても教授に対しても一歩踏み込んで見ようとしなければならんか。首はそんな事なかつたて話を聞くけど何が gap があって。」

四「それはある。例えばある教授が政治活動を禁じたのはけしからん等とかんでいける者が実は政治のセの字も考えてない。この大学に限らな。すぐ斗争だ。固結だと騒いでいる内にその本質を見失って斗争の目的を忘れて

無関係な人間にまで示威する者や、自分一人が刃んでしまって実際に相手——政治家、時には教授、——を打診しなり内からぐれ弾圧されたとか反動だとか云う、被害妄想狂も居る筈だ。」

二「しかしそんな美辞の影で全く無関心なのをカモフラージュする場合だってありますよ。やり度い者は勝手にぐれと云われるが、それこそ暴言です。一人で出来るものじゃなし、だから自分の主張を述べて賛同者を募るんだから。友人の中には全く無関心なのもいるが僕は連中を疑いますね。」

一「はっきり云って政治活動はやった方が良いのですか。それとも……。」

三「学生が政治活動をやるのは間違っていると思う。全く純粋な立場から批判出来ますからね。問題は手段と立場だと思いますが、手校の方は今のデモ以外に良いものがあるとは、それより化学専攻の我々がどの程度までそれを許されるかと言う事です。化学を投げ打つてもと言うならそれでも良いが、それなら誰か云う様に、この大学を出て……が良衆となる。」

二「政治は経済も教育も *control* しているといつて良いでしょう。僕達がその大きな環境の改善を目指さずに文句を云いながら実験室にごそごそしてるのはそれこそ利己主義者だというより盲目ですよ。」

一「もっと四回生、三回生の先輩が強かに指導して欲しいですね。」

四「化学を専攻する者は化学のみに打ちこめと云えばこれは多少疑問が残る。しかし現実に取り組まねばならぬ化学の山積みの前にしてどの程度まで時間と頭脳にスペアがあるかと言う事だ。二回生まで騒いでいた連中が三回生になってぶすとも云わないのは、意識してそうなった人は僅かです。大部分が自然消滅したという所じゃないか。就取がどうか云うのでなく。二年前前に淡手に騒いでいた人が今 会社で研究室を一つ当てかわれて人を使っているという話だが。僕は一、二回生の方がこの種の問題を真剣に取り組む時期があっても悪くないと思う。むしろ将来この体験は別の形で生かせると思う。問題はその場限りのお祭り騒ぎで此は止した方が良く思う。中学時代の親友でこの道で執行委員をやっていたのが居るけど、実に良く研究してますよ。自分なんかノ言の文句をはさむ余地がなかった。

こう云った問題では指導部は実に敬するに値するが、下で騒いでいる連中には烏合の衆が多いって事だ。だから充分な実のある責任をもってやる事だと思う。それからあまり理想夢を追求しないう事。後は個人だと思う。」

三「政治問題に限らぬが学長の云われた広場で真理を探究せよと云う事と化学に打ち込む事とは時には矛盾しませんか。先輩達は二回生の時全員でダンスを習いに行っていましたけれども真理の探究ですか。」

四「広い意味での教養って事にするか。それは冗談だが広くあろうとするのと深くあろうとするのは時にはぶつかり合って相容れない場合がある。自分の事で恐縮だが僕は割り切って二回生まではいろんなクラスや学内のサークルに入ったり、盛り場を徘徊したが少くとも三回生からは化学に打ち込むと頭の中では考えて来たね。たゞ誰もそれを認めてくれなければ、学園祭なんかも毎回出て。」

三「当然でしょう。毎年思うんやが先輩が参加せんのを怒ってた連中が、三回生になると出て来ない。悲むべき現象ですね。あのえーところらで恋愛論の方はどうですか。」

一「僕なんか今はまだそれ程考えてませんが。」

二「今に間違いなく考えるようになります。絶対に避けて通るべき道じゃないですからね。論の方でなく実践の方。ちよっと集まるとこの話は必ず出ますからね。無関心と云うのは異常ですよ。」

三「周りを見廻すと適当に楽しんでるという感じ。でも二回生の時みたいに誰もあり理屈は云いません。実践の段階と云うのか。」

四「こうあるべしと云えないのがこの問題じゃないか。まあ此からという有るもあり、もうそんな時代は過ぎたと居り顔のも居れば、目下の所というのもありで、たゞ四回生になると就職の手を考えて社会に飛び出す事を考えるのか、或いは自分の年の由か、とにかく現実的な眼で見えるのか。二回生の頃の様にいわゆる恋の冒険等は出来ない。何となく結婚の手がちよっと引つ掛けてくるみたいな感じがする。二回生の頃は恋への責任なんて……」

二「黙ってたら、まるで無鉄砲にやってるみたいで。そんな事ないですよ。先輩がまてたんと違いますが。いやそんな場合もありますよ。」

三「此は各人御勝手にという事にして。結局大学生活は何を与えるんですか。」

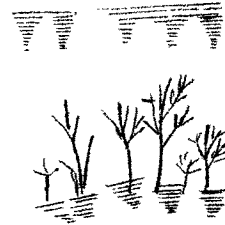
四「僕はこう思う。それには広い物と深い物即ち一般教養と専門知識だ。そしてその割り合いは各人の個性が要求するので何とも云えない。しかしその吸収に当って大学生はかなり自由が認められている。その教養の内容も違えば将来それが有効か否かも各人について違ってくる。結局同じ学生という名の下にありながら、社会の指導者に必要な人間そして社会に順応出来る人間が作り出されるのが大学生活を通してでしょう。だからその生活がまちまちであっても不安でも妙でもないんだ。唯これだけは云えると思う。学生個人がその教養と知識を大学生活の内に何って要求し吸収しなければ大学生活は結局その人に何も与えなかったという事になるんじゃないか。」

一「では又。」

(散会)

真赤な空に緑色の雲

一回生 宮崎 能久



一回生は定性分析をやらされる。塩酸を加えるのは簡単だ。毎日沈んでんが出る。高技で習い実習したのと同じ事だ。しかし三族へ行くと思った通りに行かない。硫化水素の臭いの中で頭をひねる。だいたいは理論だけが頭に入っていて、実際の反応がそれに伴って来ないのだ。化学の反応は正直過ぎると思う。三族の鉄など とんなに注意しても少し出てくるものだ。 $Al(OH)_3$ の自光がほんのり赤味をおびるのは見た眼には楽しいが、本人は真陰なものだ。実験中でも僕はつまらぬ事を考えてしまう。こんな態度は科学者として落着きなのだが、僕は常にそんな事を考えるのだ。

蒸発皿の中で青い液体がしだいに固化して行くのを見ていながら、この青い色は銅だろうと考えるのではなく、この青色は誰でも同じ色として認めてくる不思議さを感じるのだ。単にこの一色に対し日本人達が共通に「青」という言葉を使っただけで、個々の人間がその色より感ずるのは別々のものだ。

青は青であるという絶対的根拠はないのだ。この「甲は甲である」という考えを認めて初めて色に名前をつける事ができる。僕は若い。青年の特徴として絶対性を求める者の一人である。しかし僕は相対的な考えで事物を見て行きたい。ある時には正しく、ある時には誤りとなる事柄が何んと多い事か。

「真赤な空に緑色の雲」これは何も気の狂った者の言葉ではない。僕が金沢の郊外のスキの原っぱで昼寝をしていた時、ふと目を開くとあたりの色が変に見えた。あわてて目を閉じた時、僕は真赤な空が網膜に残っていた。皿の中に、渠う様に緑色の白く縁とられた雲が浮んでいた。

蒸発皿は完全に乾いて、黒いものかくっついていて、我にかえって実験を続けながら、やはりその事が頭にこびりついてはなれなかった。アンモニアで溶かした液はやはり青かった。その液をながめながら、これは青いのだろうか？と又考える。フエロシアン化カリを加えると、けっきまぶたに残った赤い色がずっと現れた。ああこの色も青いのかも知れない。僕の頭の中では、赤、青、緑、の原色が茂つもの三角形となってアトランダムに運動していた。それが何らかの秩序を得てしだいにはっきりして来ると、やはり僕はただ実験室で試験管をにらんで立っているだけだった。硫化水素の臭いがまた鼻をつく様に拡がって来た。

“6.27闘争に反対し加わらなかった皆さんへ”



2回生 遠見 弘

6.27デモ決行に対してCⅠ回生とCⅡ回生がクラス討議をやり、圧倒的多数を持ってデモ参加のきまつた事は周知の事実である。しかし我々は決して6.27斗争に反対した人達の事を忘れてはいない。クラス討議の時“大学管理制度”に対して賛成の人は1人も居なかったように思う。それなのに河坂彼等は斗争に反対したのだろうか？

反対意見は終始デモに対して反対という意見であつたように思う。

「A君の意見」

デモをすると多数の人の反感を買うから、それに現在の自治会執行部の考えからよりすまて危険である。

「B君の意見」

我々のように隠れんな学生がいる事を忘れないうちに……

「C君の意見」

僕の考えとしては大学管理制度には、絶対反対であるが、ジグザグデモにも絶対反対である。

「D君の意見」

僕は大学管理制度には反対であるが、6.27斗争では他の事についても同様に反対斗争をする、だからデモには行けないう例えは僕は憲法改正賛成であるし

僕はこれらについて一つ一つ反論を加えてゆきたいと思う。

まずA君の意見について

A君ははたして学生運動についてあるいはその歴史についての程度理解を持てているだろうか？僕は全然持っていないと考える。全然知らないのでたゞ一般の人の反感を買うからではこの問題はすまされぬ。

彼の爲に少々学生運動の歴史、意義、成果について述べようと思う。

終戦2ヶ月の後に東京上野女子高校に於て「軍部に協力した教官を追放せよ」「戦時中研究の自由を抑えられ大学を追放された教授達を直ちに向かえ入れよう」と全国に呼びかけた。この運動は当然のことながら大きくもりあがり、進歩的教授達を再び大学に向えると同時に「学生の総意による学長の

公選「寮に於ける舎監の廃止と完全自治」「学園の完全自治」を獲得し得たのである。

しかしこの時早くも中国反革命に失敗した米帝国主義の侵略は初まっていた。占領軍は傾斜生産方式により独占資本への重資投資によりその復活をはかった。戦後不死鳥の如くよみがえった独占資本の原因はまさにここにある。

そして日本を足がかりにして北鮮、中国への反革命 米帝国主義の戦いは展げられる。

1950年6月25日韓国軍は一斉に38°線を突破して北鮮保安隊を攻撃した。タレスのいわゆる「偉大なるドラマ」とはまさにこの事をさすのであった。
(㊤ 北鮮南鮮のどちらが先に攻撃をしかけたかは永遠の謎であるが、松本清張の「日本の黒い霧」その他によるとどうやら米帝国主義の偉大なるドラマのようである)

しかし北鮮の力は圧倒的に強くまた多くのうちに京城が陥落した。日本国内は一瞬緊張した。そして狂気のように反共宣伝が行われ レッドパージが初まった。そして下山、三鷹、松川等の事件も米軍及び政府により巧妙に策動されたと考えられる。

1950年9月1日文部大臣天野貞祐は「10月初旬大学のレッドパージを断固強行する」と言明した。これに対して全学連執行部は帰郷中の学生に「重大なる事態が発生した。即刻学校に帰れ」と呼びかけ反対斗争をくりひろげた。そして10月5日40校の学生が東大正門前の武装警官隊のバリケードを破って構内集会を開いた。この斗争により大学に於けるレッドパージは中止せざるを得なくなったのである。現在我々が進歩的教授の話しく残念ながらこの学校には存在しないが開けるのもこの偉大なる斗争の勝利であったことを忘れてはならない。確かにその後理論におけるあやまり、及び共産党の政策の誤りの影響を受け(火焰ビン斗争 地域人民斗争)により大衆の反感を買ひそれに共産党主流派は学生運動内のヘパモニーを握りあやまった方向に学生運動を導いて行った事は認めざるを得ない。しかし長い沈滞ののち全学連はようやく自己批判し、1956年にはその完全なる再建に成功した。

そして砂川斗争を勝利へと導くのである。(この内題はその後政府の再度の拡張言明と伊達判決をめぐり、紛糾した1956年鳩山首相は一方では日ソ友好条約と中立約にみえる態度をとりながら一方では日米軍事同盟強化の為砂川基地の拡張及び沖縄の核武装を取り入れて、そしてただちに東京調達局は砂川に測量隊を派せんした。これに対して全学連は試験中にも関わらず、1,000名もの多数の学生を遠くはなれた砂川に集合させる事に成功し 地

市民と一体になってスラムをくみ、にきりめしとタクワンの食料でこれをはぐんだのである。そして遂に政府は測量中止を宣言せざるをえなくなった。もしこの時金學連が実力ではまなかつたらどうなっていたであろう。

そしてもっとも盛り上った安保騒動は皆さんよく御承知の通りである。とにかく法案が通った後で「あの時僕は運動こそしなかったが反対だった」ではもうおそし。絶対にそれではすまされぬ問題である。

次にB君の意見について

僕はこういう言葉に対しあえて反対はしない。しかしそういう考えこそ長いものにまかれるの代表例であり、フルジョア的平和主義に安住し、たゞ平凡に一所懸命勉強さえしていれば立派な就職口が待っていてくれる。「我々の就職の邪魔をしないでくれ」つりにはこういう暴言を生み出す要因である事を我々はもう一度はつきり銘記しておかねばならない。

もし憲法改正がなされ自衛隊が軍隊にかわりくどいながらも同じであるが合法的になったという点で大きな意味を持つ。徴兵制がしかれたらどうなるであろうか。我々はいやでも兵役義務に従わねばならない。もう一度言うが僕はあの時行動しなかったが反対であったではすまされない。

最後にC君の意見について

僕としてはこういう考え方に最も抵抗を感じるA君やB君には人間としてなるほどしかたないところある程度譲歩しなければならぬと思うが、C君の意見は絶対にゆるせぬと思う。もし我々が理論に終始して行動を起さぬとしたらどうであろう。あの偉大な反イールズ斗争、反レッドバージ斗争、砂川斗争、その他に於ける反帝国、反軍事斗争の勝利はまったくみられず、又安保騒動に於てもあれほどの盛り上りはみられなかっただろう。そして政府の出した法案はことごとくそのまま通り、核武装をし、米帝国主義の最先端として中共とにらみ合っているかもしれない。あるいは大学に於ては進歩的教授はことごとく追放され、官僚主義的、長いものにはまかれる式教授の集まりとなっているかもしれない。それにもしデモをやめるのだったらはたしてそれにかわるだけの有効な手段が他に有るだろうか、もっと有効な斗争が行えるだろうか……ジカザクデモ反対ならやらなければよい。現に京大はジカザクはやっていないし、女子学生の大半は歩道を静かに行進しているだけである。それにシュプレヒコール等のデモ方式も有るではないか。C君の最大のカンである行動性の乏しさを克服して積極的に行動されん事を望む。

我々は常に終戦当時のあの純粋な気持ちを忘れる事なく、中立化の方向に一歩一歩前進しなければならぬ。そしてそれはまず学園の自治から初まる事

を銘記し、労働者と提携する事により一層その運動を高めなければならぬ。そして日本が完全なる民主自由の国に生まれかわることをかけかわりつつあるものである。

最後に「大学管理制度問題」に於てまったく理論なしに「大学管理制度反対」は我々の問題であつて君等の問題ではない。いらぬお世辞ひをやめてくれ」と言明された先生につつしんでいかなの意を表明すると共に、決して先生がただちだけの問題ではなく我々にも大いに関係のあることを言明する。

尚、所々、「現代の学生運動」を参照しました。

我が随想

1 回生 山内浩市

今はちやうど、ドイツ語の休講の時間だ。がむしやらに走っている機関車が停止したときの様だ。授業中当てられるのではないかとひやひやしてはいたがほっとした。外は細い雨が青もなく降っている。

僕はなんとはなしに、図書館へ行った。この解放された時間を、一人きりになって過ごしたかったからだ。こうでもしなければ実際に自分というものがつかぬような気がする。今の状態はまるで自己が何かの奴隷になつてしまったかの様だ。もつともこれは今までは、はつきりと自身で意識できなかったためかも知れない。

最初、僕はこの学校で一所懸命に學問してやろうという氣持だつた。だが、その心は近頃になつてくずれ落ちてきた。けれど入学以来、新入生の誰かが少くとも一度は、大なり小なりの幻滅感を感じたのではないだろうか。余りにも内部へ閉じこもつた学校の体制、人間の個性を無視した画一的な技術教育、單調な毎日……。その中で起つてくる迷ひ、悩み等が、學問への意欲の障害となつてはゐるのではなからうか。

けれど僕は、「ファイトを持つて事態にあたろう」とする積極性が欠けてゐることを告白しなければならぬ。本学でも、進んで今の困難を窮屈な状態を打開し、学内の改善を計ろうという動きが起つてゐる。そして僕もその運動に加わるようにと、すすめられたが、余り氣になれない。

僕はどちらかといへば集団の中へ飛びこんで活動するよりは、一人きりでゐる方が好きなのだ。ただ余りにも物質教育に明け暮れる毎日に反叛した氣持はある。

な
の
対
れ」
が
だか僕は孤独でいる時間を、有効に使っているとは云えない。かえって、
どうでもいいようなことをしたり、あれこれと様々な対象に目を移したりし
て、結局、中途半端で愕然と一日を暮らしてしまう。ある意味においては、
今程に僕が目的意識をもつことができなくなつたときではない。勿論、おほろ
かな理想はあるが、雲をつかむ様な話である。その理想を実現しようとすれ
ば、性急的には現実を否定するより仕方がないのである。そして残ったの
は、疲れ果てた自分と、冷徹な既成事実だけだつた。

そこで僕は色々な人にも相談し、又、自分でも今の事態を、見つめようと
努力した。これは大分時を経なければできなかったが……。

しかし、とうとう僕は自分に勝つた。まだその歩みは弱々しいが「現実」
を「現実」として受け容れることができる様になった。今はただ助言者の方
々に感謝したいと思つてゐる。

さて、話は前へ戻るが、僕は書架を見回して、この前から読もうと思つて
いた「和辻哲郎全集」を借りた。僕はこのような本に、大層あこがれを持つ
てゐる。終りまで読み通すかどうかかわらないが、目下とりくみ中だ。
こんな本を読んでいると着者が羨まましい。しかし、もっと悠々たる心地で
読むべきだ。現実からの逃避の手段として、やたらに活字をひらき読みす
るのは良いことだろうか。

「古寺巡礼」の部を読む。和辻氏はそこで古代の建築物や、仏像への讃辞
をおしまないのである。僕も昨年のし月頃、奈良を訪れて、慌ただしく、
薬師寺や斑鳩の法隆寺を見て回つたことがある。その時は、古代の芸術は
本当にいいものだと思つた。だがとても一日や二日で見られるものではな
い。もう一度いつて見たい。古代の芸術には、美しい一貫した調和があ
るのだ。だが、それは当時の社会体制と無関係ではない。

いふまでもなく古代は奴隸制社会であつた。もっとも我國では氏族制か
ら分化した特殊なもので、本格的なものは、大化の改新後に確立した。
そして一個人の統一された意志によって大集団を容易に統集できた。

又、その精神的背景としては、大陸から輸入された仏教思想が挙げられる。
そこでは純粹な目的意識が働いている。(少くとも今の僕のような不安定な
態度ではない。) 勿論、民衆は恒、労働力として扱われていた。

五世紀程経た、鎌倉時代には封建制の基が布かれた。一万、仏教は民衆のも
のとなつてゆき、宗教は衆えた。この時代にも秀れた芸術品が現われてい
る。だが、中世が終り、江戸時代に入つてからは、幕藩体制を維持するた
めに、キリスト教は嚴禁され、人々は仏教寺院に縛りつけられた。そして、

寺院は自からの意義を放棄してしまった。我國の宗教活動は急速に衰えていった。もっとも「隠れキリシタン」の如く純粋な宗教活動は、その火を細々と燃やしていたが、弾圧は激しかった。「三つ児の魂百まで」と云われるが、今日、日本人が無宗教と呼ばれるのは、このためではないだろうか。この幕藩体制は深刻な矛盾を内部にはらみながら 明治維新へと続く。江戸時代の芸術に、余りスケールの大きなものがないのはこの故である。

その後、明治、大正 昭和前期と国家主義 ひいては帝(軍)国主義の時代を経た。

近世、現代は資本主義の時代である……。僕は無宗教である。

あらゆる現象は、皆、ばらばらにちらばっていて、絳繭をなしていない。人と人との間には、個人主義という斥力が働いている。秀れた芸術も 相互の調和を見失っている。そして我々はマスコミに 更にその奥の「見えざる手」によって支配されている。近頃のマスコミによって提供される、種々雑多な問題の中には、優れたものは少く、どうしてもよいようなものや、くだらないものが多い。それらを規制するのに、人間の良識を待つことも大切である。けれど端的に云えば、それらは 現代日本の「社会体制の矛盾」を暴露したものではないだろうか。

過去においては、それが海外侵略によって発散された。しかし今はその力が国内に振向けられなければならない。それがひいては、あくどくマスコミを利用することになるのである。(僕はこれを「国内への侵略」と呼んでいる。) とすれば、この矛盾を是正することが必要となる。

この前の公開座談会でも、この様な点が問題となっていた。僕自身は日本は今しばらくは、修正資本主義の段階を経、将来社会主義に移行するだろうと思う。そのためにも色々な研究が行われている。結局、学問の最終目的は急進的あるいは漸進的に革命をなし遂げることである。

そのためには もっともっと、自己の視野を広げなければ駄目だ。今の悩みは、これから来ている。色々なことを体験してみたいと思うけれど時間的に余裕がない。またその機会もない。何よりも勇気がない。結局、一人でも物思ひに死んでしまう。考えてみれば、大学は、そのままに職業に通じてしまっているのだ。そのことが、今まで悟れなかった。僕は今まで 余りにも安易な道を歩んで来たと思う。

ひとりと

“Chain No.11 編集を終えて”

／回生 鶴野 高資

“C科の機関誌というから、学術的な物ばかりと期待していた。”学術的な物ではなくて、あく迄文芸や随想、雑感の本だと予想していた、“こんなのは高くても内容もバツトしないしつまらない”-----etcというのが編集子が耳にした／／号への／回生の感想である。

Chainの本質は何だろうか？市販書籍に類するものか、決してそうではない。貴重な人生の／時期にable-engineerならんと頑張る、C科生の再で自主的に生まれ、歯車でかみ合った様な学園生活にうるおいや指針かつは横のつながりとしての親睦をはかり、油の役割となる様にと出来たものであるかろうか。今問題とするのは記事内容と寄稿である。

C科生及び関係者全体の新機をめざすChainが、学術、文芸、思想、政治問題の／あるいは之部門ばかりで占められたものではどうだろうか。勿論それらはあつていけないというのではなく、それらも大いに歓迎されるものである。思う所それらもありかつ自分らの悩み、諸問題、不満なども寄せ、それがC科全体の問題として解決していくという様にしたり、あるいは大学生活、実験室での話題や失敗、成功談等又は学会、業界の動きや卒業先輩の現状報告等ありとあらゆる視域からの結合として真に皆のものとしたchainにしていきたいわけである、次に寄稿については、-----

これはchainのみの問題ではなく、ゆかめられた大学入学制度の副産物として全く巧利的個人主義的人間が以外にも多い事である。勿論かく言う自分もその典型的なものである。しかし我々にはその圧迫はなくなったのである。小屋から放たれた青空のもと無限に広い青原にでた羊のようなものである。限度を越えない限り、何でもできるのである。今この時期に必要なのは“何でも見てやろう、やってみよう、書いてやろう、読んでやろう”という態度ではなからうか。今がそうすべきまさに与えられた時期ではないだろうかと思うのである。その一端としてchainには卒業する迄に／回ぐらい寄稿したらよいとか、chainは人をつまらないとべつ視する者も自分で進んで寄稿して、自分の理想とする様なchainとなる様にやってみようものである。そして皆のchainが我々C科のチャートとなる様にやってみようものである。それが最初にchainを生みだした先輩連の考えではなかったのだろうか。そうしていくのが我々C科生の義務であり、編集子はその義務遂行の爲のしも

べであると思うのです。以上がこれからの chain のあり方を思ったあげくの
ノ編集子のひとりごとを拙文に託したものであるが、編集子を依頼するぐら
い、これからの積極的な寄稿を切に期待するものである。

“学内を民主化しよう”

1 回 生 山 田 博 之

今、全国的に大学の自治の危機が叫ばれている。すなわち 産学協同によ
る産業界 — それも独占資本 — の学閥進出、池田反動内閣による大学管理
制度強化の企て等で代表される。体制の側の一連の政勢による大学の自治の
侵害である、では大学の自治は何故必要なのか。

もし、大学が政府あるいは支配階級により、支配されるならばどうい
う結果をもたらされるか。彼らは、ごく目先の利益により多くとらわれがちであり、
他の階級の犠牲などほとんど考慮しないから、学内は巧利的になり、基礎研
究よりも応用研究の方の比重が重くなって行くだろうし、支配階級の行爲を
合理化するための理屈を製造するだけのものになってしまう危険は大いにある。
しかし、基礎研究をおろそかにして、学内の発展は全く期待できない。
応用研究は、常に基礎研究の成果を吸収してこそ発展するものだと思う。学
内が基礎研究をサボリ、応用研究にのみ没頭するようになれば、最も大きな
被害をこうむるのは、被支配階級に属する大多数の人々なのだ。

被支配階級の人々は、支配階級に都合のよい形で高度に発達した機械文明
により、今までよりも一層苛酷な、一層巧妙な搾取と、本来当然享受しうる
豊かな生活が出来ないという二重の被害をこうむるのである。

また、大学は現在最高の教育機関である、歴代自民党反動内閣は、アメリ
カ帝国主義と、日本独占資本の意を受けて、これまで、教育ニ法改悪、教育
委員の任命制、勤評、学力テストと一連の反動政策、立法により、小中高校
の民主的教育を圧迫し、破壊して来た。その民主主義を踏みにじって来た泥
足で今また、大学における民主主義をもないがしろにしようとして企てている。
こうして彼らは教育を完全に自分の手中におさめようとしているのである。
「教育を支配するものは未来を支配する」彼らはこれを地で行こうとしてい
るのだ。支配者は常に教育を自分達の意志で動かしたいのだ。

しかし、教育が支配者 — それもほんの一握りの — の手にうつしてしま
った社会がどのような発展をとげるのか、それこそ将来に戦前の天皇制教

育、軍国教育の再現ではないか。大学の自治がなくなれば、支配者たちにとって、それはたやすいことなのだ。しかも、大学の自治は今まさに強力な侵犯を受けようとしているのだ。

私たちは、本当に、日本の民主主義を守る気があり、日本の社会の平和な発展を願うならば、どうしても、研究と教育の最高機関である大学における民主的な構成と運営を守りとおさねばならないのではなからうか。

さて、ここで本学の場合はどうだろうか。

大学の自治を確立するには、必要条件として、その一大構成員たる学生の自治が確立されなければならない。しかるに、本学では、学生の自治はおろか憲法で保証されている当然の権利、集会、結社、表現の自由さえも保証されてはいないのだ。私たちはこの問題から先ず解決して行かねばなるまい。

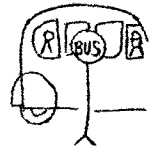
また本学ではすでに、もうずっと以前から、大資本の要求にかなった技術屋—中沢元学長がいわれたテクニシマン—の生産に大わらわであり、その結果か、学生の自治意識も驚くほど低く、自治活動は低迷を続けている。つまり本学はすでに、その自治の権利を放棄してしまっているのではないか。

そこで、現在の我々に課された最も重大な仕事は、この自治権の回復だと思う。もっとも今度の自治会は例になく活発に活動し、大学管理制度の問題が積極的にとり上げているが、これは執行部にだけ任せておいてよい問題ではない。全学生か、否、教官、事務取員、生協も含めた全学が立ちあがらねばならぬ問題だと思う。そうしても独占資本と反動政府の強力な攻勢を打ちやぶるのは並たいていのことではないのだ。

私たちは、大学の自治を、学内の自由を、そして民主主義を守るために決意を新たにして、この問題に真剣にとり組んで行くことが必要なのではないだろうか。そしてまず手はじめに、学生は自己の民主的な権利を回復し、教官の諸氏は、教授会の民主的な運営を打ち立て、全学的な連帯のもとに学内の民主化を達成しようではないか。



乗物の中で



1回生 泉由美子

私は甲子園口から通っているの、電車の中やバスの中で、色々な人を見、色々な行いを見ます。

① 朝は早いので大阪へ行く途中で日産勤務者（だろうと思うのですが）の女の人と同じ電車に乗り合わせます。その人たちの着ているものや、持ち物を見たり、その生活者についての話を聞いておきますと、程のすねをかじっている自分が恥ずかしくなってきました。

大阪駅で快速を待っていると、丁度向い側のホームに特急「こだま」が止まっています。そして私のいる奥向が一等車と展望車になっています。この一等車や展望車に着かざって乗っている女の人達と、一緒に乗り合わせた女の人達とを比べていると、つくづく日本の（現代の）政治の貧困さを見せつけられたようで、なさけなく又悲しくなります。私達が社会を荷なう頃には、こういう差をなくさなければならぬと切実に思います。

② 日曜日の夜10時頃電車に乗ると、いつも不愉快になります。というのは、酔っ払ひが多いからです。そばに座られると洒くさい息をいやでもかかぬばなりません。酔っ払ひは大きないびきをかいて頭をふくの肩によりかゝらせるので、大迷惑です。

③ 空席のない電車やバスにお年寄りの人や、幼い子供をつれた人が乗込んだ時、さっと立って自分の席をゆずっている人（特に学生）を見ると、心太ほのぼのとし私までがうれしくなってきました。こういう行いは、わかっていてもなかなかすぐには実行できないものです。こういう人々ばかりだと、日本もずつと住み良い国だろうと思われれます。

まだ色々なことを見たり聞いたりしますが、こうして観察していると色々な人生の縮図（なんていうと大げさですが）というようなものを見ている様な気がします。

④ 先日京都から普通電車に乗って帰った時のことでしたが、私の前の席に食しい身なりの30才前後のお母さんと5つぐらいの男の子供とが座っていました。私達の隣のボックスにもやはり女つぐらいの男の子とそのお母さんとが座っていたのですが、その女つぐらいの男の子がアイスクリームを食べているのを見、私の前にいる男の子がお母さんに「僕もアイスクリーム買っ

て」とねだったのに対してお母さんが「だめだめ」といったのでその子は泣いてねだったのでお母さんは「お金がたくさんある時にね」といつかだめていました。すると子供は悲しそうにならずにいました。これを見聞きして、最初のうちは私は、20円のアイスクリームくらい買ってあげたらいいのに」とそのお母さんに対して腹をたてていたのですが、後になつて、「このお母さんだつて子供にアイスクリームくらい買ってやりたいのだろうけど、金がないから買ってやれないのだ、20円のアイスクリームさえ買ってやれないお母さんの方が子供よりもずっとずっと悲しいのだろうと気がつくとそのお母さんに腹をたてたことをあやまりたい気持ちでした」。

緋化不道德講座

〜夏休み特集〜

by Y.Y.子.

1. 自由の翼を求めて大いに遊べし —— 夏休みは二カ月ある。講義の事など忘れて遊べ遊べ。我等は自然の子だ。
2. ガールハントに精を出すべし。—— 日頃の欲求不満を海や山で爆発させよ。焼酎も噴火したのだ。
3. アルバイトでガメツクが仕ぐべし。—— 報酬の安い所はさっさとやめよ。金の切目は何とかの切目。現代人の気質を世に知らせ。
4. 山へ行けば次の事を心得よ。
 - ① 道標は方向を反対にする —— 登山者の地図を読む力が養われる。
 - ② 上から石を落し —— 登山者にスリルを与える。
 - ③ たき木は生木を切ること —— その木が枯れて次に来る登山者の役に立つ。
5. 海へ行けば次の事を心得よ。
 - ① 泳いでいる人の足を引張って沈めよ —— 溺れかけた所を助ければ人命救助で金一封がいただける。
 - ② 日帰りの場合はバンガローは無料である —— 晝かローであつて晝かローではない。
 - ③ 水中で放尿すべし —— 塩分が増え浮力が増し泳ぎやすくなる。

・就駈について考へたこと・

四回生 寺田 英 一

近頃は毎年のことながら、4月から5月にかけてほとんどの会社から求人の申込みが来る。四回生になりたての我々にとって、会社の選抜を急に迫られても、大した資料もなく、又自分自身がどの方面に向いているかということもはっきり解らないので、あれこれ思い悩むばかり----これが大方の心境であつたと思う。

ところで自分の希望先を受駈するには、何か特別なコネクションがない限り教授の推せんが必要である。いくら自分が希望しても推せんしてもらえなければ受駈する資格がないわけである。従つて一つの会社に希望者が殺到する場合には、学内で求人数だけの人數が選考される。

以下今年の四回生の学内選考に關する現状を述べよう。三回生以下後輩諸君の参考になれば幸いである。

学内選考は各研究室から教授或いは助教授が各一名ずつ出席して五月の末に行われた。即ち選考委員のメンバーは貴志先生、相宅先生、町田先生、林屋先生、後藤先生（岩崎先生海外出張の爲代理として出席された）である。この五人の先生方によつて、我々学生側から提出した就駈希望調書を参考にして選考が行われた。選考の基本となるのは一にも二にも成績である。家庭状況とか地域的な條件とかは、ほとんど選考の対象にはならない。これはほとんど全ての学生の意見でもあるし、又現実であらう。實際問題として四回生になりたてで、面識も少く、我々性格とか適応性とかいうものをまるで知らない。否名前と顔さえ満足に合わすことが出来ない先生方の選考であるから、學業成績以外には判定の資料がないのは當然である。こういう選考方法を取らざるを得ないのは、会社側の求人申込みが早すぎることに原因があることは明らかである。

さて成績は三回生までの平均奥で出されるから必要な單位數があれば、單位數の多少にかゝらず平均奥く教養専内も含めて）のより高い者が優先される。従つて（可）などは單位が余つておれば出来るだけ捨て、要領よく單位を取ることが大切である。

現状は以上の如くであるから、才一希望の会社を是非とも受けたいと思うならば、かり勉でもよいから何よりもよい成績を取ることが肝心である。

但し、やたらと単位を取っても平均点が低ければ駄目である。要は要領よく英数をこなすことである。これは四回生になつてからでは時すでに遅く、一回生のうちから心がけて置くべきである。

会社によつては誰れも希望しない所もあり、また希望者が求人数だけの所もあるが、今年の場合、東洋レーヨン、帝国人絹、日本レーヨンなどはかなりの希望者があつた。従つて将来これらの会社を希望する人は是非とも以上のことを肝に銘記すべきである。

この学内選考の方法がはたして適切なものかどうかは疑問であるが、全員一応受験先も決定し、就取内定者も続々と出て来た。今年は去年に比して景気が悪いせいもあつて不採用者もちよこちよこ出ている。就取試験も面接と身体検査だけの所もあるが、今年は筆記試験（主として英語と専門科目）のある会社がかなりあつたようである。

例年のことながらオ一志望を学内選考ではずされて、オ2、オ3志望にまわされる人がいく人か居る筈であるが、当座は愚知を言い合つたり、また学生個人の間或いは研究室間で気まずい思いをするのであるが、このchainを説んだ人は決してそういうことのない様にしてもらいたいものである。

私個人としては、先号で誰れかが非難していた様な吸血的かり勉を推賞する気は毛頭ないが、客観的な立場から見た就取に肉する状況を述べたつもりである。かり勉もよし、整ぶのもよし、しかし就取は人の一生に於ける一大事である。四回生になつてからあわてないように、今の内から心掛けておくべきである。

編集部紹介

4回生	木下泰忠	2回生	井上堅一
	沢野敏実		川村了
3回生	有松利雄	1回生	鶴野高
	金井政洋		小川信
	樋本勲		宮崎能
	堀江太		

所感 No. 2

(誌上を借りておたやみに agitate させていただきます)

C2 井上 隆 之

○学生の政治的 社会的使命について

一画生諸君が本学に再び新しい息吹きとエネルギーをもたらしてから既に三ヶ月になろうとしている。のだ元すぎれば何とやらと云うが、諸君のこれまで避してこられた生活をふり返っていただきたい。その生活はよく「灰色の青春」と云われる。人間としての能力の全面的発展、芸術性の開花の爲の教育の代りに入試技術の訓練のみを二年、三年、否、人によつては四年、五年も強いられ、自分の成功とは他をけ落す事であり、そして「勉強」とは自分の本来の欲求——自己を広げ、自己を学問の世界に於て表現する事——とはおよそ違つた「義務」「苦役」であり、入試地獄はみずみずしい感受性や創造性を粉砕してしまうものであったのだ。

このような事態を嘆く世に云う「識者」のことははいてする程あふれているのだが何の役にも立ちやうにもない。そして一方では、その意志と能力を持ちながら多くの人々が経済的理由で進学を断念する事を余儀なくされている。どうしてこのようなばかげた事になっているのだろうか。

諸君は今までこの事実を真剣に認識した事があるだろうか。これ即ち、現在の日本の抱えている政治的貧困に帰因する一つの深刻な問題なのである。このように諸君のほんの身近かな実を拾つてみても我々は現在の日本の社会の持つ大きな矛盾を発見せざるをえないのだ。そして総ての社会の矛盾は我々学生を四方八方からおどし、圧し、威嚇し、挑発し、たとえ我々がスポーツに我を忘れていた時でも、バイトに熱中している時でも、勉強に没頭している時でも、甘美な恋に我を忘れていた時でも、またその泥沼の底であがいている時でも、いかなる時もこの社会は我々を離さず、我々を政治から解放せられる事はないのだ、——それにもかゝらず常に自分を守り、自分の生活を侵されまいと虫のように机にへばりついていいるかあるいはろくでもない悪ふざけの頹廢ムードの中で生息(?)しているのが本学学生諸君なのだ!

政治的、社会的に支配されてしまつていいるのが諸君なのだ! およそ学生として真面目な態度と云えないのではないか、-----く失礼、中にはそういう人もいいるという事です。悪しからず。

私は諸君達すべてのものに目をつぶり、自分のカラの中にとじこもり、思

想に於
いて来
る、世
示され
チツ息
体的に

現在
ターに
だから
がある
義の段
的条件
稀であ
一人が
云つて
の中心
アルバ
諸君
と、小
青年
てしま
生活に
事実
事に生
能力の
て「こ
る。く
この
本経済
つて台
「能力
陥入れ
政策と

想に於て自己中心的発想法しか取り得ぬ人や、自分の審美的快楽性のみを追い求める人々に講う、——自分の生活を大事にする前に諸君の周囲を、日本を、世界を眺めよ、そして行動せよ。——然しておのずと諸君のとるべき道が示されるであろうし、諸君が知らず知らずのうちに全体主義的なワクの中でチツ息しかけていた事を知り、そのカラクリを打ち破り、真の個人として主体的に、行動的に前進している自分を発見すべきである。

現在の資本主義社会では学校体系は、即ち教育体系は階層上昇のエレベーターになっているのだ、諸君等のうちにはひよっとすると大学にはいったのだからもう大丈夫、エリートとしての未来が約束されていると考えている人があるいはいるかも知れない。しかしそれはおそらく間違いだ、後期資本主義の段階ではインテリの社会的地位は明らかに下墜してしまった。ただ経済的条件を考えただけでも、今日大学卒と云つても満足な生活水準を得る者は稀である。我々と同様、希望に燃えて大学へ入った先輩の多くは就職しても一人が食うのが精一杯、とても結婚したり両親を養ったりどころではないと云っている。それでもまだ大学出はましな方には違いないのだ、全国幾百万の中小企業労働者がその家族と共に想像以上の極貧の中で生活しているのはアルバイトに行けばすぐわかる事だ。

諸君は就職してしまうとささやかな昇給と、ステレオと、かわいい興さんと、小市民的な「安定」をあきらめとやけくその気持で夢みるようになる。

青年時代にあった諸君等の内の人間としての創造性などがかけらもなくなってしまうただブタのように食っては寝、起きては食って生きているだけの生活になってしまうのだ。(失礼……)

事実インテリにとって経済的な生活難より耐え難いのは自分の生活に、仕事に生きがいが見出せない事、自分の生命の充実感、自分の創造性、表現的能力の自由な発露が得られない事であろう。ある先輩、Aさんは卒業に際して「これで終りだ」と云う感じで、これからだという気がしない」と云っている。(彼は超一流会社に入ったのだが)

このようにして本学だけでなく日本全国の青年層の間に、表面的変態的日本経済の繁栄によって作り出された、無気力、ニヒリズムが大きな勢力となつて台頭して来ているのだ、これは何を意味しているのか。このように元来「権力への反抗」をその本質とすべき若い青年層を無気力、ニヒル、柔順に陥入れる体制が出来上つてしまった事は、敗戦後、アメリカの反共軍事極東政策と朝鮮戦争の特需景気をバネとして再び躍進した日本ブルジョアジーの

勝利を意味し、日本民主主義戦線のとりでたる学生がその内部から腐敗し、日本反動勢力が再びファシズムの嵐を巻き起す素地が出来上りつつある事を意味しているのである。先日の朝日の夕刊に於て「今年の東大の新入生にはいわゆる学生運動に於ける活動家が一人もおらず、又これは此の大学においても全国的に見られる現象であつて、概して最近の学生はおとなしくなりつつある。また学生間に於いて保甲党支持率が増加し、共産党支持率を上回らなかつた」と報告しているが、この状態の何と戦争直前のファシズム台頭期に於ける若いインテリ層の態度と酷似している事か！元来、青年の本質は「権力への反抗」であり、青年の反抗のなくなった時、それは国の衰へる時なのだ。

この世界は変革されねばならない。——その変革によつて損をするのは、極く少数のブルジョア階級である。

私の今から述べんとする思想はいわゆるある人々は最大級の形容詞でもつて罵倒して嫌悪を示し、ある人々は恐怖で色をなし、又ある人々はこそこそとささやき合い逃げ出してしまふような思想である。しかし我々学生は、そのような卑劣な態度を取るべきでない事は当然である。

マルクス主義は自然と人間の歴史に関する最も深刻かつ論理的な理論である、それは社会の発展の歴史についての科学、共産主義革命についての科学である。マルクスによつて初めて歴史的・全体的に科学的に把握され、人間社会の不合理を解決しようとする運動、即ち社会主義と共産主義は歴史の発展法則に於ける必然を洞察する事により科学的なものとなつたのである。

諸君はたとえ理工系の学生であるとしても受験期のコマ切りの知識でなく自然と人間の歴史と我々の現在生きいる社会をもっと深く、有機的に知りたいと考えておられるに違いない、そして世界の歴史の現段階に於て如何に生き、如何に今日日本が当面している政治的、経済的な危機を打開すべきかを模索しておられるに違いない。

今日、否、いつの時代にも人間の歴史をまじめに考え、かつ現代を主体的に生きんと欲する者は、マルクス主義を避けて通る事は出来ないだろう。

マルクス主義を恐れる者も、反感を覚える者も、共鳴する者も、一度はすべての偏見をすて取り組まねならない理論がマルクスなのだ。

こゝで私はマルクス主義を諸君に解説する事は勿論出来ない、がこゝに数冊の著作を挙げて諸君等のマルクス研究に役立てたいと思う。こゝに挙げた

もの二冊を真剣に研究されん事を期待する。但し、私は諸君にマルクス主義者たれというのでは勿論ない。唯、円満な思想と人格を持つ人間になる為にはどうしてもマルクスを知らねばならぬと思うからである。私自身も現在は一時的か、永くか知らないがマルクスに共鳴する者である。しかしマルクス主義者でない。マルクス主義者たるにはまだ若すぎるのだ。

「共産党宣言」(マルクス、エンゲルス)——マルクスレーニン主義のバイブルとも云われるもので絶対必読の書である。「国家と革命」(レーニン)「帝国主義論」(レーニン)「ドイツ農民戦争」(エンゲルス)。「空想から科学へ」(エンゲルス)等々——その他に最近スターリン批判に伴ってマルクスレーニンの正統継承者として認識を新たにされだしたレオン・トロツキーの「我が生涯」も面白く読まれるものと思う。

◎ 憲法問題及びデモンストレーションについて

今や日本は新しい情勢に直面している。E.E.C.を中核とする全世界を席卷しつつある貿易自由化、ブロック経済と云う新しい局面に應ずる為日本ブルジョアジーの手先たちは新しい国家体制の再編成、全国家権力の警察化の徹底、中央集権化を図り、その法的整備としての憲法改正を急いでいるのである。支配者階級は国家危機を宣伝し、国際競争力の低下を防ぐ為労働者の賃金斗争は厳しくおさえられつつあり、彼等のイデオロギー攻撃は極めて彼等に有利に展開されているのである。一方労働者の改悪阻止の運動は有効な形をとっておらず、新しい対応策が創計されるべき現在の情勢に於て、悲しむべくも厂史の流れを停滞させようとするような現状維持的スローガン「現在の憲法を守ろう」が一般大衆の心をしっかりとつかんでいる。

ここに於いて憲法問題の徹底的究明を計り、改悪阻止の運動を大衆の中に組織していく事を推進するの大学生としての義務とするのである。

デモに出た事のない人、デモが大衆の迷惑になるなどと云って批判する人々に訴える。(但し、自分の将来の身の安全を心配して反対するような方は論外である。そんな諸君を相手に議論をしたって始まらない。)——とにかく行動せよ、とにかくやり給え。そうすれば如何に現在、日本をファシズムから守る力として学生が重要な役割を占め、学生が、諸君が、現代の厂史の主体として力強く生きなければならないかが判るだろう。そして巨大な権力機構の下では我々の主張を権力の上層組織にまで訴えるのが如何に困難な仕事であり、我々の行動によって迷惑や被害を受ける人々に謙虚に謝罪しながら

も戦わざるを得ない現実を認識せざるを得なくなるであろう。(勿論充分な
情況判断が必要な事は云うまでもない。情況判断があやふやな時は当然研究
が必要であろう。—— もしデモをしてつまらなければそれでだ。

今後君はやらなければいゝんだ、そして進み給え、君の正しいと思う方向
に！

本学には余りにも思想的に栄養失調に陥入つて狂信的に自分の個人の生活
を序うとする方々が多すぎる。(学生間にも先生方にも)そのような人々
が円満な紳士の卵を養成するスタッフとしてズラリとならんでいるのだから
たまったものではない。私はそう云う先生方に 教室内で酔払いのように学
生にかみつくのではなく、この誌上や新聞その他で真面目に論議を交えられ
ん事を謙虚に願ひする。仕方がないとは云え、本学の先生方のアナフロニ
ズムと学生を理解しない事は驚くばかりである。これは卒業された先輩も云
われている事である。そして我々もそれを彼等と同じように黙つて卒業して
しまへばいゝのかも知れない。が、それではあまりにも発展がなすすぎると
思うのである。そして本学がこの時代の流水にとり残されてしまつて先生方
の意志に反して取人製造会社になり下つてしまい、本学の卒業生の科学技術
がまたもや人類を脅す 戦争の危険な街女の役割を果す事態を生み出すかも知
れない事を私は恐れるのである。

一気呵成にわけのわからぬ事を書き上げたが、以上で今後
の私の自治会活動を規制しているバックボーンがどんなもの
か学友諸君及び先生方に理解していただき、誠意ある助
言をいただければ幸いである。

ヤブシカフシ——人類への呪いと挽歌

〇三 竹西社一郎

以下に書くことによつて私をどう判断していただいても結構である。本人
は過激でもなければ反動でもなし、全くの常人でもなければ完全なキチガイ
でもないと思つてゐる。願わくは半キチガイ位だと思つていただきたい。

核実験停止、矢力全廃、世界平和をもち、なることはいわゆる進歩的
知識人なる人種は大層好むようだが、御本尊がいやがるならば無理強いする

必要も
好んで
る価値
ニ
ほしい
まり、
矢力
その費
矢力全
ばいゝ、
分け前
るのだ
同じ戒
ている
を持つ
手のす
いきの
本の知
づであ
驚く
ばの内
思う。
である
いとい
らが自
保守
く悪い
れる思
方々の
自然
ること
ともら
学では
ぜい鏡

必要もないだろう。なせならば、もし人類が生存し続ける価値があるならば、好んで自滅の道をたどることもあるまい。もし自滅するならば、もう存在する価値がないのだから、少々延長したところでいつの日にか自滅するだろう。

こゝで希望することはもし戦争するならば東西両陣営が総力をあげてしてほしいということ、そうすれば地球上の全人類は一挙に滅亡するだろう。つまり、下手に生き残って原爆病で苦しむよりはすっきりしていゝ。

矢力全廃一つとつても双方ともゴタゴタばかりならべて一向に実行しない。その責任をなんと一切相手に押しつけようというのである。これは明らかに矢力全廃の意志のないことである。やる気があるならゴタゴタいわずにやれはいゝ、もし相手がそれに乗じて証拠を企らみ、全世界がそれを黙認したり分け前にあずかろうとするならば、人類社会は救いようのない終末にきているのだからさして未練もあるまい。互いに張合つていてもいつかは滅びる。同じ滅びるならば高貴な目的のために従容として滅びる方がよほど気がきいている。野球チームにひいきがあるように東西両陣営も日本国内にひいき筋を持つている、彼らは不合理極まる両陣営の口実を餌々として宣伝する。相手のすることということには痛くもない腹をさぐる程疑い深いくせに自分のひいきのいったことには毛一本程の疑いや批判を持たないのである、これが日本の知識階級と俗称されるものゝ驚くべき特性である。庶民はもつとナイーブである。なまじつか勉強した奴は恐るべき偏見に凝り固まっている。

驚くべきことのもう一つは進歩的知識階級の実体である。知識ということばの内には単に本に書いてある知識の他に思考の能力の意味を含むべきだと思ふ。ところが知識階級という奴のいうことは〇〇主義人門筆々の本に書いてあることぞつくりそのまゝであり、オリジナルなものは棄にしたいともないという試みである。進歩的というにいたっては何をかいわんである。その彼らが自由で自主的な思想云々というセリフを白昼堂々と吐くのである。

保守とは古いよいものを守り保つという意味だと思ふのだが、日本では古く悪いものを維持強化しようということであり、革新的なることはで表わされる思想の持主がなんでもかんでもマルクス、レーニンという極めてお古の方々のお墨付きにズイキの涙を流すとはこれいかに？

自然科学は古いものゝ否定、そして絶対的真の否定の上に進歩が可能であることを明らかにした。対象は客観的なものであり、理論的にはいかにもっともらしいものでも実際の現象に合わないものは無価値である。一方社会科学では対象は人間と人間が構成する社会である。対象に対する客観性はせいぜい鏡にうつた自分の顔程度である。そして絶対的真だという信仰に近い確

信とそれから生れる否定の自由の否定。これが社会科学レイデオロギーの正体である。社会科学は科学の名にふさわしくない。

人間は社会を依らねば生きてゆけない。そして遂に今日存在するような複雑な社会を依り上げてしまった。その中で資本主義が敵だ、社会主義が敵だと右往左往しているが、敵があるなら、社会そのもの、权力である。資本主義国では国家权力と金力がからまり複雑な様相を呈している。一方社会主義国では誰が何と弁護しようとも国家权力を行使するものは一つの階級である。全てに国家权力の介入する社会主義社会では国家权力と官僚は絶対である。レイデオロギーを問はず权力階級は权力を常に自分の手中に確保するためにその地位を脅やかす者を反社会的の名のもとに葬り去らんと欲する。レイデオロギーで人間が変わったりはしない、どんな社会体制でもこれから逃れることはできない。唯一ではあるが不可能なことは社会集団を解体し、人間個々人で生きることである。よって滅亡しか道がない。

面吹にせよ日本にせよ、武士が階級的に固定しない時代、即ち戦国乱世の時代がもつともすつきりしていた。唯一の頼りは「カ」であつた。今日の指導者層のように平和を口にしながらかつとぐようなことはしなかつた。相手の武力を口うるさく非難しながら武力を行使することは卑劣である。レイデオロギーも糞もない、カと力のぶつ付け合いがすべてであつた。力の強いものが正義である。人間がもつとも男性的だった時代である。だが現代は女性的な時代だ。外面女菩薩内訛女夜叉というのが現代の人間、特にあらゆる集団の指導者にふさわしいことである。すべてのもつとももらしくて、きれいなことばは人を釣る看板である、集団の中へ入つてしまえば単なる一匹の蘭車である。それも大して重要でなく、数さえあればよいのである。

個人的に見ると人間は全生物中で最も愛すべき、美しいまた一方醜い、しかし魅力的なものである。又美は欠美なりに時に美しく時に魅力的である。しかし人類という抽象的なものを考えてみると、いかにもきたならしく、卑劣で、醜い、忌むべき生物である。個人 M_1, M_2, \dots, M_N は好ましいが人類 M は忌むべきものである。

マブレカブレで勝手な事を書いたが当人はこの罵倒の対象外であるとは毛頭考えていない。むしろ自分の欠点を人類というスクリーンに投影して人類を罵倒しているのかも知れぬ。だからもし僕の考えている人類には入らないような高潔にして聡明なる方があつたらお許し願いたい。そして他人に強制するつもりもなければ絶対的な意見だも思っていない。元来思想といえども各個人の生い立ち、性向、友人、師等々の影響などの総合されたものであり

これと同じことを他の人がいつたらウソになる。悪徳とはそれほどあいまいなものであり、生物的な人間の前にはまったく無力なものでもある。



編集部紹介 - 1回生の巻 -

鶴野高資

産地は大阪、ノ見おとなしそうだが内に秘めたる情熱は水をもこがす。人にいわせると男前で雄弁で工織の模範生になる可能性がある。ドライとウエットの両極端を行く男。卓球部在籍中

小川信夫

若さあふれるファイトマン。船場のイトハンのあこがれの的。高校にひきつづいて水泳もやり、ワングルの成長株でもある。自営会でも文化局長として活躍中-----。

宮崎能久

宮崎と称しながら千葉で生れ、石川で育った男。高校で卓球をして今はワングル、合唱に在籍中、洛西寮の奇声は彼が振源地。今に呼出し小鉄の二世？-----。

— 次号は2回生の巻 —

蟬

3回生 金井政洋

コツコツと石畳を踏みながら、何を思っていたのだろうか。
僕にとってはその時はその時、今は今で決まて二度と言えるようなものではないのだが。
ひっそりと静まった松の木の間を月夜の寺院は、
もう風は何だか生温たたかであつたが、僕にとっては孤独の響き以外の何物でもなかつた。
境内の空気は胸につかえる筍の煮汁の臭いがしみついているようで、不快だつた。
その時、ジーと言ったようで僕は思わず鼻歌をやめた。

蟬

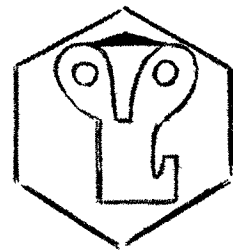
今年初めての蟬の鳴声。

それもこのような夜、このように遅く突然に。

僕の肺腔にこだまし、心臓にまで響き、身体中を駆け廻るような鳴声であつた。

僕の身体の中に心というものがあるならば、きっとそのよごれを洗い流して呉れたであらう。

ジーと、息もつかせぬその鳴声は、その日の終りまで聞こえ続けていた。
(62. 5. 17.)



なかにわ

岩崎教授全快される。

去る、4月繊維化学有、染色技術者国際会議に出席されるためオランダへ行かれ、不幸にして健康を害され長らく静養しておられました岩崎教授はすっかり回復され、最近では以前と少しも変らず研究に増々精を出しておられます。それ故に休講であった担当講義も7月2日より始められました。

相宅、後藤両助教授、学位を取得！

相宅省吾助教授並びに後藤四三男助教授はかねて提出中の学位論文がこの程審査をパスし両助教授共工学博士の学位を拝られました。今後一層の御活躍を期待いたします。

工場見学

繊維科恒例の工場見学が快晴に恵まれた6月19日後藤助教授引率の下で3、4年生を中心に総勢70名により行われた。午前9時、本学部前出発のヤサカバスで、郡是製糸（塚口）— 日本ペイント（大阪）— キリンビール（厄崎）— のコースで行なわれた。講義の内容が現場ではどの様に応用されているかなどを理解しようと努めたり、先輩の案内で工場内を回ったり、ていねいな説明や心よいもてなしに感謝しつつ、ガイドさんの歌あり、学生諸君の歌あり——、非常に愉快な日でした。秋には全科でどこかへハイキングでもしませんか。

池のゴイ

芸術性にも清潔にも乏しい池ではあるが、我々にとっては又とない休憩所がこの池のまわりである、最近3年生は一人あたり10円を出し合って若いゴイを買った、池のまわりで暇なときはゴイをかたり、友をかたり、大いに人間性を高めたいところですが、もう少し中庭はなんとかなりませんか雑草をとりドラムカンなどのさびついた古鉄などを除去してお花畑をつくってはどうかです。誰か勤労奉仕をしてくれませんか。

各科対抗の体育祭なり、球技大会が終わったらその奮闘ぶりをほめたうえ、勝利を祝い、悲運の涙をぬぐうためにも終る後には、大いに氣勢を上げるようなことをしては如何？ 今秋にはきつと優勝会をやろうぜ。

第3回

思想、隨想、幻想

三回生 金田 洋二

不連続と非対称ということ。

昔から「ツェノンの逆理」と呼ばれる非常に奇妙で、且つ、面白い問題があり、何世紀にもわたって数学者や哲学者を悩まして来た。例えば「アキレスと亀の逆理」とか「矢は永久に運動しない」とか言った問題で、これの他に二つの問題がある。これは一種の詭弁のようにも見えるが、一方正確に運動の本質、さらに自然の本質をついているものと考えられよう。即ち、時間とか空間といったものが、我々の直観で考えるように無限に分割しうるかどうかということである。微積分の初期に出してくるように「無限に小さく分割する」ということ自身、非常に矛盾と困難さを持っていることなのである。数学では連続はいわゆる「 $\epsilon - \delta$ 」論法によって定義されるが、問題はそれではたかいたわけではなく、現代に於てもその矛盾は完全に解説されたものとは言えない。ある人の表現を用いれば、連続の問題は永遠に数学に背負された十字架なのである。又、よく知られるように量子化されたエネルギー準位がある特定の不連続な値を取り得ないという事実や、目に見えるものとしては、2.19°Kに於けるヘリウムの超流動現象があり、今日この現象を説明するものとして、この状態のヘリウムが量子液体であると言われ、実質的にもその正しさが認められていることなどがあげられるし、その他、ニュートンリングの干渉現象を初めとして多くの波動現象に不連続性が認められる。

又、今一つの自然のもつ性質について非対象性ということがあげられると思う。今一つの思考実験として、全宇宙を写す鏡のようなものを考えるとすると、その中に写るもう一つの自然は、我々の住んでいる自然と厳密に同じだろうか、即ち我々の知る自然法則に厳密に従うだろうかと言うことである。答は否定的である、化学でよく知られるように天然の化合物は光学的に活性で右手系と左手系があり、実験室で合成されたものはラセミ体であるという興味深い現象がある。これは宇宙空間に共通することであり、このようなことが、生命の秘密さらに自然の奥底の謎と深く結びついているように思え

るのである。又、数年前、アメリカのリーマンは「パリティの非保存」ということを理論的に予想してノーベル賞を獲得したが、これについて詳しいことはとても解りかねるが、中間子とかの素粒子の崩壊過程である種の対称性が破れていることを述べたものと言われている。その他、最近の物理学では時間、空間の対称性に関して色々論じられているようである。ハイゼンベルグの提唱した「非線型場」とか、湯川博士の「非局所場」といったことを考えるとき、我々の古典物理的常識はますます崩壊し、自然の連続性とか対称性といったことが我々の単なる直観の産物にすぎないのかもしれないとも考えるし、又、自然の真の奥底ではやはり又、対称性、連続性をもっているのかもしれないとも考えられる。それは、自然の本質というものが非常に単純なものだと思われるからである。

(ツェノンの逆理については、白石早出雄著「数と連続の哲学」、吉田洋一著の「歌の発見」をお読み下さい。)

日本的伝統について

我々は民主主義の教育の中に育ち、西洋的教養を身につけていると考えているし、程度の差こそあれ、一応そういうことになっている。そして今の若い世代の人は、昔の教育を受けた人達の倫理感なりを頭ごなしに「封建的」という言葉で否定しようとする。しかし、その事が正しいか否かは別として、我々も又、その軽べつする封建的思想の中に生きていてそれに気づこうとしないのである。言いかえると、如何に深く日本的伝統が我々の中に入り込んでいるかを知って驚かされるのである。(このことは何も日本独特のことではなく、イギリス人の経験主義やフランス人のデカルト的合理主義にもみられることである。)そして、口で西洋を唱え 日本的伝統を否定する自身の矛盾、割り切れなさを感じるのである。それらは、又、借りもののような西洋の思想、習慣、ある種の思想的偽善を生み出しているようである。外国人は西洋が、400年かかったことを、日本が100年で成しとげたと言うが、その年月の差はそのまゝ日本の現在の文化が砂上の楼閣にすぎないものであることを示している。日本の産業革命は外国からの恐威の必要であつても、国民のそれではなかつたし、民主主義も国民の必然ではなかつた。けれども、そんなことはどうでもよいことであつて、その欄からボタモチを如何に消化するかということが必要なことである。そのような西洋的思想を真に理解する態度、日本的伝統に対する理解の上に立つ批判を通じてこそ、日本の文化政治といったことが論じられるのではないだろうか。西洋の吸収に悪戦苦斗

し、日本的伝統の盲目的否定は百害あって一利なしであろう。もちろん、ここで言うのはその復活を強調しているのではなくして、その批判の上に立脚した新しい日本的伝統が必要なことを述べたつもりである。

科学の制限について

過去の科学が自然の絶対的真理を求めて今日に到ったけれども、しばしば述べたように絶対的なものは存在せず、多くの事実が相対的であることが見出された。もっとも、ラッセルの言うように全てのものが相対的であれば、世界には相対的なものはないのであるが-----。そして今日の科学をみると、何かどうしようもない制限がみられるようである。それは江上不二夫さんの隨筆にも書かれているが、研究する場合にその方法についてある自由度の制限が必要であるということである。

まずオーにとり上げられるのは観測の問題であろう。もし、人間が光にのって走ることが出来て、その前に鏡が同じ速度で同じ方向に動いているとすると、その鏡に人は自分の姿を認めることは出来ない。それは、光にある制限された速度の上限があるからである。このことは同時に、時間にも影響を及ぼし、我々が過去とか未来とか言っているのは単に我々に限してのみ言えることであり、他の観測者については過去であるかもしれないし、未来であるかもしれないのである。だから、我々がある遠方にある恒星を観測する場合には、過去のある時分に於ける恒星しかみることは出来ないのである。即ち、我々が光を観測の信号として使うかぎり、この困難さをまぬがれることが出来ないわけであり、そのことは人間衛星の出現などによつて、多少の実感をもつて我々に感じられる。

次にもう一つの測定の問題として不確定性ということがあげられる。例えば、我々が電子のようなものを観測しようとするれば、それだけ電子は影響を受けることになり、その位置を如何に小さい不確かさで測ったとしても、運動量の不確かさはそれに応じておそくなつてしまう。これは、古典物理で考えていたように絶対零度に於て各電子の運動が全く止つてしまうということがあり得ないことを示している。絶対零度に於ては電子は何かわからないけれども、ある不確かさをもつてフラフラ運動すると考えられる。このようなことの起る原因は、被観測物に対して新しい環境を与えることなしに、物を観測することは出来ない点である。又、別の例として、電子の干渉現象を考えると、電子がどのスリットを通過して干渉を起すかを観測しようとするれば、干渉は起らないし、電子が分割不能であるのに、二つのスリットを同時に通過

したと考えられる。これは、一見非常な矛盾であつて、我々の常識の通用しないようであるが、これは物質そのものの本質的屬性と考へてよいだろう。これはさらに相補性という性質にも関係して来るのである。

才三に、生命の領域であるが、生命の本質を知ろうと実験するのに、高温高压という条件が用ゐられないのは言うまでもない。即ち、生命を知る為には、常温、常圧ということをや一に考へねばならないのであり、このことだけでも、その実験方法は著しく制限を受ける。それに加えて試料なども、劇物はいないで、その合成機構を解明しなければならぬ。特にこの方面には、今後、多くの発展性が期待される。

その他、科学には人間生と言つた制限もあるわけだが、このことは非常に多くの問題を含んでいるので、又別の機会にも述べたいと思う。とにかく、このような制限は、今日の科学が我々の古典的常識を破つてゐることを示しているが、同時にこの制限が真に越えられないものなのか、あるいは越えた領域は何かなどという問を生み、我々にさらに自然の真髓のあることを物語つてゐるように思ふのである。

(観測の問題については、富山小太郎着「現代物理学の論理」及び、朝永振一郎着「量子力学的世界像」を参照下さい。

科学の魅力 —— ある思い出 ——

雨の日の電車の窓は車内の人の熱気で白くくもる。外では、はげしく雨が降っている。ガラスに雨がたたきつけられてひとすじの水溜を依つて流れおちる。その光景は誠に美しいが、それをみる毎に、高校の時依つた霧箱を思ふかべる。

もう五年も前になつてしまつたけれども、高校に入つてまもなくの夏休みに、ある雑誌に「拡散霧箱の依り方」が出ていた。その当時、物理はもちろんやっておらず霧箱とは何かということもわからなかつたのだが、とにかく面白そうなので、さっそく依りたくなつたが、何しろ銅板のハンダが出来る程の技術は持合せない。それで父の友人にたのんで、大体のものは依つてもらい残りは自分で何とか作つてみた。学校で文化祭用の費用としてドライアイスを買ひ、毎日遅くまで実験したのだが、全々徒勞など表われそうにない。色々と原因を考へてみるのだが、いずれも失敗し、とうとう製作者に手紙を出して謝したところ、光のあて方が悪いのだらうと言うので、色々な角度で光をあてゝみたけれども、やはり見えない。それでかなり、あきらめ

かけていた時、化学の先生が雑誌のはしに書いてあるチヨットした事をやってみろと言うので さつそくやったところ三十分程してついに飛跡を見ることが出来た。この時の感激は一通りでなかつた。ぼんやりと三十分程、真暗な室で飛跡をながめていた。そして電燈をつけるのが全く惜しいという気持で一杯であつた。

その後、受験の事などで止めてしまつたけれど、もつと色々追求していたら面白かつただろう。それにしても、手紙を出すとして親切に「ウラン鉱」を送つてくれたM先生、色々助言してくれた物理のF先生、それにあの特有のにおいのするプロピールアルコール-----。それらが静かに連続的な流れとして思い出されるとき、ふと、笑いが生れ、涙さえ目にあふれる。それはおそらく科学の魅力なんだろう。雨の日の電車の窓は、そんな事を思い出させる。

指揮者になりたい。

夢の中には実現可能な事と、不可能なことの二種類あると思うけれど、実現不可能である方がより面白いし、それへの憧れはさらに強くなるものである。僕の夢は人間として 可能であつても 僕には永久に不可能なことだが一生に一度、指揮台に立つてタクトを振ってみたいということである。あの細い一本の棒で、バイオリン、チェロ、フルート ホルン----- など百人近い人々いや、色々な音を支配出来るのはすばらしいことである。小沢征爾さんが言うには、指揮のこうというのは、今指揮者が何をしようとしているかという意志をタクトに表わすことだと言う。指揮者、演奏者、聴衆が一体となつて始めて真の偉業が生れると言うが、この美しさは人間の依りうる最高のものではないかと思ふ。これは演劇などの場合でも言えることだろうが その多様性、さらに不調和の調和とも言える救がりは、シンフォニーコンチエルトの比ではないだろう。この美しさを創造出来る人は幸せであり心から羨しく思うと同時に、モーツァルトでもチャイコフスキーでもよいしベートーベン、ブラームスでもよい。一度、自分の好きな曲を完全に指揮してみたい。そして指揮者の喜びを一度味わいたいと夢みるのである。

—— C 科 教 職 員 及 び 学 生 名 簿 ——

教 授.	岩 崎 振一郎	上京区盆座通下立売上ル (23) 5011
"	貴 志 雪太郎	京都府乙訓郡長岡町大字友岡小字北の口25の10 阪急長岡花山住宅
"	町 田 誠 之	北区紫竹高繩町4の38
助教授	内 野 規 人	伏見区深草中の島13、府営住宅404
"	相 宅 省 吾	左京区浄土寺石橋町114 (7) 6589
"	後 藤 四 男	左京区嵯峨夜迦堂内前表柳町18の3
講 師	武 内 民 男	枚方市大字築野928日本住宅公団中宮才1住 宅3-203
	今 井 政 三	中京区六角通新町西入
	所 本 誠 三	左京区岡崎南御所町24
助 手	高 橋 重 三	右京区太秦二町芝町1の13 (86) 2444
技 臣	竹 田 晃 雄	中京区西の京南聖町5の1
"	松 本 喜代一	上京区六軒町通一条上ル若松町345 (44) 3282
教務員	北 尾 敏 男	中京区西の京職司町9 (84) 6142
"	成 田 宏	東山区山科日岡保津原町1
4回生.	芦 田 芳 雄	北区紫野今宮町17
	天 辰 健 治	高槻市古曾部111の35、5-3155
	井 伊 国 裕	大阪市浪速区水崎町19
	池 田 弘	京都府乙訓郡大山崎村藤井畑74、山崎76
	井 上 修 次	{ 大阪市福島区上福島北4丁目24、(45) 0964 右京区竜安寺塔の下町5 (伊藤弄郎方) ㊦
	井 上 正	北区紫竹西高繩町36 (44) 3806 4代 (420)
	井 上 道 明	{ 近江八幡市円山町11 近江八幡 2107 北区大將軍鷹司町東高司町 (今井明利方) ㊦
	上 田 宏 吉	(兼) 大阪市浪速区三島町42 (44) 6112
	上 田 穂	大阪市東住吉区西今川町4-31 (791) 4922
	上 田 裕 正	{ 大阪市旭区4林町2-197 大阪市北区此花町1-15 (石田遼一方) ㊦ (43)

- 成山 正 左京区田中東樋ノ口町34
 大野 徹 吹田市千里山三二八
 大河 正樹 { 岡崎市日名町1100 岡崎5266
 右京区花園大藪町25 (岩崎保夫方) ㊦
 岡崎 誠之 大阪市東住吉区田辺本町5丁目12
 岡田 卓二 北区大將軍西町31、 (44) 2086 (小林)
 片瀬 憲一 大阪市東淀川区西淡路2の320
 川端 誠治 茨木市宿久庄1488
 喜多 敏夫 左京区吉田下阿栗町23
 木下 泰忠 { 奈良県北葛城郡河合村佐味田、 箸尾 77 (木下)
 右京区花園一条田町9の12 (南部和夫方) ㊦
 坂下 信雄
 澤野 敏実 { 大阪府南河内郡美原町舊生1340
 右京区花園寺の内町2の1 (千原益蔵方) ㊦
 高田 恰行 大阪市西成区今池町19 (641) 1560
 竹迫 雄司 西宮市今津浦風町23、 西宮②-5960
 田中 逸雄 大阪市旭区生江町1の21
 千葉 明 神戸市東灘区住吉町瀬川1299 (85) 5607
 寺田 英一 中京区壬生高樋町中部26
 登川 寿夫
 中村 志夫 大津市膳所桜馬場町392 (大津285、昭和東灘所蔵)
 原 隼 東山区祇園町南側537 (6) 4798
 平野 翊三
 平間 敏郎 大阪市阿倍野区昭和町西一丁目13、
 (呼X6616228 (河村)=)
 広瀬 節子 (寮) 大阪市旭区大宮町10丁目53
 藤田 宏哉 { 呉市釣場町2丁目4
 中京区壬生下溝町一 (藤田宏哉) ㊦
 堀内 勝宏 { 大阪市住吉区御崎町1の61、 (671) 4519
 北区等寺院東町1の61 (望月美代子方) ㊦
 町田 志太郎 西宮市甲東園2の68 西宮(5) 0326
 松下 真智子 (寮) 大阪市東住吉区桑津町8-3 (74) 1871
 松本 正 西宮市甲子園口北町161
 村田 有 茨木市目垣688
 (44)

4回生 村 田 紀 子 下京区堀川通下魚棚下る川端町328、(37) 0855

森 山 大 雄 { 倉敷市日吉町39 /
上京区等寺院南町 (大高正嗣方) (45) 4778 ㊟

大 塚 弘 毅 { 町司市畑田町4丁目
北区大將軍南一条町九 (山田喜代子方)

(44) 1427 ㊟

分 部 好 孝 豊中市服部本町5の46 豊中アパート10棟262室

濱 田 徹 哉

加 戸 喜 八

加 藤 龍 男

森 順 一

3回生 有 松 利 雄 京都府乙訓郡長岡町大字今里小字八ノ坪11の7

井 垣 角 富 東山区三条通白川橋東八中之町191 (6) 6218

池 本 陸 男 { 葛取県東伯郡大柴町大字亀谷1164
北区等寺院北町奥知井内 (高橋佑子方) ㊟

日 高 公 雄 (寮) 堺市金岡町1423

内 田 武 男 南区唐橋高田町4 (39) 9455 (光沢)

内 海 裕 奈良県北葛城郡当麻村 長尾 166 (中村)

大 川 晋 一 (寮) 布施市中小阪173の6

興 健 寛

大 島 敦 { 神戸市東灘区住吉町古新田1479 神戸(85)3637
右京区山越乾町 (林唯一方) ㊟

片 上 順 子 (寮) 堺市出島海岸通り2丁126 堺(2) 6438

金 井 政 洋 { 阿山市西中山下57 阿山(2) 0754
右京区花園一条田町4の4 (藤田侃) ㊟

金 田 洋 二 尼崎市森字笠1池250

川 口 泰 明 西宮市弓場町34 西宮(2) 1251

川 嶋 淳 夫 橿原市小槻町

北 島 義 和 南区西九条川原城町2

北 田 友 彦 寝屋川市堀溝311

久 保 栄 一 布施市足代一丁目120

久 米 敏 生

- 樋本 熱 { 兵庫県城崎郡香住町加鹿野 193 香住 517-140
右京区御室芝橋町24の1 (吉村久子方) ①
- 酒井 正 幹 (寮) 神戸市須磨区大手町4丁目12
- 酒井 睦 司 { 寝屋川市三井21 寝屋川 (020) 3-2196
大阪市東区北浜3の21 (山岡利一) ①
- 坂上 充 芳 伊丹市吳竹町315 伊丹 4884 (歌崎方)
- 佐野 津 治 大阪市住吉区粉浜本町2の13 大阪(671) 7179
- 七原 康 行 右京区西院上今田町26 生(81) 1440 (本島方) ①
- 志村 義 之 (寮) 神戸市垂水区東垂水坂上41六
重水 2174
- 竹西 壮一郎 芦屋市三条南町83の2 芦屋(2) 4704
- 田中 致 郎 右京区太秦御所1内町27の4
- 田中 和 彦 右京区壬生馬場町14 (84) 4491
- 長田 徹 芦屋市打出親王塚町30
- 西尾 尚 之 南区東九条西御壺町28
- 根岸 靖 雄 伏見区深草旭1内町2の33
- 平田 氏 雄 右京区下鴨東萩ヶ前町2 (78) 1394
- 藤岡 勇 右京区桧原宇治井西町13 (38) 3475 (糸谷方)
- 藤田 治 (寮) 三重県一志郡熊野町中川 中川11番(田浩方)
- 堀江 広 草津市草津町元町3丁目
- 松原 博 北区小松原北町61 (44) 2080
- 矢野 賀 彦 { 名古屋市千種区神丘町紅ヶ丘アパート東2/105
北区小山西元町12 (矢野玉方) ①
- 山口 重 次 { 新宮市提防町 新宮315
右京区竜安寺塔の下町5 (伊藤弄郎方) ①
- 山田 雄 亮 (寮) 神戸市灘区森後町2丁目75
- 山本 卓 生 右京区桂坤町26の11
- 横田 佳 雄 { 神戸市東灘区住吉町、宮西294
神戸市生田区加納町3丁目 ①
- 吉沢 靖 夫 伏見区京町4丁目152
- 吉田 政 彦 (寮) 八幡市折尾町永犬丸三ヶ敷 619
- 倉部 行 男 豊中市服部本町5丁目46番地

2回生

浅野 紀夫 大阪市東淀川区十三東之町3の34

新井 義秀 高槻市芥川千草町1256 (5) 1283

荒木 忠昭 右京区太秦森ヶ前町23

石井 澄夫 { 神戸市東灘区魚崎町横屋537(85)5188
右京区山越乾町1番地(林唯一方) ⑦

井上 隆之 { 大阪市大淀区本庄中通3の36
北区大將軍鷹司町25(林長三郎方) ⑦

井上 長三 伏見区深草府上町58-1 (30) 2090

井下 俊 { 愛媛県川之江市妻島町675
北区出雲路松ノ下町九(松岡方) ⑦

今西 修三 { 大阪市西成区山王町ニ-36 (68) 2186.
北区千野島居前町47(浅見真雄方)(44) 4682 ⑦

加藤 好克 { 大阪府池田市東市場町178の18.
右京区花園宮之上町46(人見きさ方) ⑦

加原 敬助 伏見区小栗梅小坂町63 ダイゴ 54.

河越 通信 神戸市東灘区本庄町深江神楽町31 芦屋(2)
8440

川村 了一(寮) 堺市南長尾町3丁52

金沢府管住宅5棟147号、

北野 正明 大阪府北河内郡門真町桑才260 二島41

倉内 浩 右京区谷口垣ノ内町6番地

斎藤 博 尼崎市栗山字大苗代 378の26

坂本 義章 伏見区新町9丁目402 30-419

清水 靖之 中京区生生森町45 (84) 6658

杉山 正 { 愛知県稲沢市下津町西国府1.
右京区宇多野福王子町85(和田龍太郎方)
(45) 4817 ⑦

鈴木 絃次 { 滋賀県伊香郡余呉村国安444、中ノ郷7820
北区等持院東町6の3.(望月美代子方) ⑦

角野 雅晴 { 大阪市阿倍野区晴明通105
北区衣笠大蔵町26 ⑦

竹村 一郎 右京区太秦一の井町21、(86) 0906(喜谷)

田中 孝之 左京区浄土寺西田町5 (7) 0016(川下)

段田 博己 布施市中小阪409 (721) 4214(平タペコ店)

(47)

2回生

中 川 隆 司 上京区黒川通一条上ル毘沙門町760 (44) 3966
長 沢 紘 一 北区等持院北町19
永 松 啓 至 下京区綾小路廣小路東入塩屋町8/ (35) 6263
中 村 智恵子 { 明石市太寺2丁目142 明石3350
 { 北区等持院西町23、(島森方) (下)
西 川 繁 明 (療) 尼崎市西大島稻葉荘 3の16
西 沢 康 雄 南区西九条島町53 (39) 2673
西 谷 玄 道 大津市田上岡津町466 岡津14、(上野久雄)
平 松 驥 大阪市旭区新森小路中4丁目5
遠 見 弘 { 阿山市栄196 阿山(3)376/
 { 右京区花園一条田町4の4 (藤田方) (下)
松 岡 徳 康 { 藤岡市平尾本町44 (75) 2871
 { 北区夜笠東浦キ町16 (下)
松 見 隆 大阪市住吉区墨江西六ノ二 (671) 5253 (山本)
園 尾 博 一 (療) 大阪市此花区仮法町北五丁目17番地
向 井 佐保子 { 枚岡市額田町697 枚岡2003
 { 北区等持院西町23 (島森方) (下)
村 岡 雅一郎 (療) 大阪市港区魁町、5-4
望 戸 正 之 { 広島県大竹市大竹町栄町963、
 { 右京区花園宮ノ上町46 (人見 圭方) (下)
八 島 平 武 大阪市福島区草薙町43
山 道 亮 啓 坂本市太田六 内上野240
山 下 清 吾 { 大阪市阿倍野区松崎町4の78
 { 右京区宇多野柴橋町3の9、(黒木方) (下)
山 田 元 雄 { 西宮市上甲東園3の51
 { 右京区大桑安井西裏町27、(永井方) (下)
吉 田 典 生 高槻市上田部 10の72 (5) 2754

一生

秋田 佳宏 下京区御幸町綾小路下ル丸屋町4/2
(35)30/1 ㊦伊藤

秋元 明 左京区下鴨北野々神町25
浅田 泰 裕 西宮市学文殿町1丁目6/1 ㊦2939
池上 正道 豊中市本町3丁目279
泉 由美子 西宮市上甲子園1の143
(49)

1 四生

鷗	野	高	資	大阪市東淀川区相川中道2丁目2	(39) 7824
大	橋	武	久	大阪市北区堂島浜通1の106	(38) 3405
大	屋	重	光	東山区東福弁通天野	(6) 0600 (昨) 片岡
岡	本		進	大阪市都島区高倉町2丁目43	
小	川	信	夫	大阪市東区住吉町44	(76) 7228
片	岡		功	大阪府南河内郡美原町黒山	
河	井	昭	治	大阪市生野区片江町4の23	(73) 9656
河	嶋	康	天	彦根市安清町2の260	
				北区紫竹下梅木の町(菊田九郎方) ㊦	
神	岡		健	東山区山科竹島竹の街道町35	
喜多島	温	宣	(寮)	尼崎市道意町1丁目48	
木谷	順	一	(寮)	小倉市大字砂津350	
貴村		旦		大阪市天王寺区細工谷町85	
小	嶋	一	見	福井市三ノ丸町14 (2) 0165	
				中京区西の京町町32の8 ㊦	
柳原	敏	之	(寮)	大阪府南河内郡美陵町林西324	
柳原	三	司	(寮)	愛媛県今治市石井391	
鈴木	敏	夫		北区小山上内河原町32	
高嶋	英雄		(寮)	三重県上野市田端町956 (上野533)	
高橋	裕	介	(寮)	東京都豊島区長崎4の35	
橋	健	一		寝屋川市大和146	
田	迎	勝	利	寝屋川市大字泰730の93	
田	伏	啓	蔵	大阪市旭区新森小路中2の53 (昨)(95) 2318	(西田福太郎)
田	淵	康	之	神戸市東灘区魚崎町横屋508	
玉井	洋	進		堺市金岡町1423 公園住宅62-5	
千代	国	夫		堺市北三国ヶ丘町5の168 (昨) 堺(2) 2301 (土井)	
土岐	六	郎		左京区下鴨藪倉町61	
野田		玄		伏見区桃山井伊掃部東町32	
中	道	和	也	(寮) 大阪市東区法円坂町法円坂住宅32-8、10	(74) 4347 (事務所)
奴	賀	芳	夫	西宮市西田町三 (2) 1674	
布	瀬	俊	治	豊中立上津島123の8	
服	郎	国	彦	大阪市城東区関目町5丁目1番地	
平	野	雅	巳	(寮) 大阪府大東市諸福732 (昨) 大親123 大東	

1 年生 下 山 崎 義 (寮) 芦屋市打出春日町 2-3 (41) 7767
 牧 田 輝 天 中京区新町三条下ル (25) 0584
 松 尾 圭 造 大阪府八束市三箇フクタ (41) 八束 560 (政理)
 松 尾 嘉 穂 大阪市都島区都島本通7丁目2番 (明) (21) 2290 (津田)
 宮 崎 能 久 (寮) 金沢市油車 20
 山 内 浩 市 左京区吉田河原町 5 (7) 6714
 山 内 康 之 下京区朱雀北1口町 22 (37) 7315
 山 田 博 之 (寮) 大阪市生野区猪飼野東 6-28 (74) 5489

(寮)は、本学学生寮、後に②とあるのは下宿先、後に何も書いてないものは自宅を意味します。又、京都市 --- の京都市点を省略させていただきました。尚、以上の住所録において誤録やでの誤の変更改があれば至急に編集部までお知らせ下さい。

— 編集後記 —

今度の chain No.12 の発行に致るまでは一寸手間取った。何れ原稿が来まらなければどうすることもできないのだから。しかし別にかたがたすることもないと思う、この調子でも結構やって行けるのだからぼつぼつやって行こうと思う。あまり必要を感じさせないように、その方が長続きするだろう。6月22日に主に学外実習のことで34年生の座談会をしたが40人位集まってそれぞれ良い話であった。

長い夏休みが暇の前に迫っているが、いつになっても夏休みはやはり楽しいものだ。各々プランもあるだろうし、プランがなくてもやはり遊びに行くものは遊びに行くのであるから、又九月には皆元気で顔を合わせたいものである。なお、今まで高いという評判だったので少しでも安くと思って、少々残念でもあったが印刷屋を変えました。

— 原稿募集 —

内容 — 機関紙としての目的に適するものであるなら自由。

形式 — 自由 (原稿用紙には横書きで題字と姓名の欄を五行とすること。)

締切 — 11月上旬頃 (特に期限はありません)

受付 — 学生委員又は編集部員 (原稿用紙入用の場合には編集部員に。)

我々繊維化学科生が共通の話し合いの場を持ちお互いをよりよく理解し繊維化学科の発展のため個々のエネルギーを結集すべききっかけをつくるために。

（津田）

戸

日

・

お

果

こ

行

う

集

し

く

で

々

）

。）

維

に

Chain No.12

発行日	昭和37年7月7日
発行者	京都工芸繊維大学繊維化学
印刷	原 野 印 刷 社 (921)6493
編集	繊維化学科 chain 編集部
編集代表	金 井 政 洋